

昭和四十三年三月招集

第一回市議公會定例會會議錄(第五号)

第山市議会第一回定例会議録(第五号)

昭和四十三年三月招集

一 三月十六日(土曜日)

一 議事日程(第五号)

日程第一 行政一般通告質問

午前十時三十分開議

議長(吉田勇治郎君)本日出席議員数 二十五名

二(小寺)第一回市議会定例会第五日會議を開会
いたします。

本日議事はお手元に配付の日程表により行ないます。

日程第一(二(小寺)通告による行政一般質問を行ないます。

かねて御通知いたしまして締切りの三月十三日午後
五時まで提出のありました議員及びその順序は
お手元に配付の通りであります。

順序により二より行ないます。なおこの際申上
げます。

通告者は以上通りであります。他に関連質
問等の御発言もあらうかと思ひますが、本日は
通告者のみの発言といたします。

質問時間は申し合はせ協定のとおり再質問より
三十分以内といたします。

二より順序により発言を願います。

一六番議員 五十嵐昇君 御登壇願います。

(一六番議員 登壇) (拍手)

一六番(五十嵐昇君)先陣を承りまして、通告質問

を申し上げます。

昭和四十二年度終予算を審議するに当りまして私は次の三点について本間市長並びに市当局に対してその御方針をお伺いしたいと存ずるものであります。

本会議開会劈頭におきまして本間市長より昭和四十三年度施政方針並びに一般議案の説明を拝聴したる通りありますが、本市が人口六万を割り、果議の定数が一名となり、人口的には本県二十市中の中間位にある筈、市は財政的にまことに容易でないにもかかわらず、健全財政が堅持されておりますことはまことに慶賀すべきことでありまして、市長並びに市当局の苦心と行政上のすぐれた御手腕に対して、深く感佩する敬意を表する次第であります。

すなわち本間市政が第一に観光都市として
の対策 第二に産業の振興 第三に教育環境
の整備 这三点を根本の柱といたしまして新
規経費を重点的に計上せられたことであります
観光対策を見ますと館山湾の一部埋め立て
による開発計画 北条海岸におけるところろ
並木の造成 さらに城山公園 くらぐ園の開設等
を計画いたしまして 適当な施策を着実に実
行されておりますことは 市民として 歡喜にたえな
いもうがあるでございします。 一カーながら教育
面におきまして 縣へ来う北条小学校の移転新築
問題 二からもういよいよ着工を迫られるとともに
市内に散在いたします 老朽校舎をかかえる小
中学校の整備統合の問題 また市庁舎 前

建設されておりますところの文化都市を象徴する
市民センターの完成等が上げられて、いろいろ揮
毫の問題等に関しまして財政に多事多難であ
ろうかと存するものがあります。そこで私は以下三
点についてお尋ねをします。次第でございます。

第一は館山市財政の五カ年計画の樹立というこ
とでありまして、長期財政振興計画が樹立されてお
り、財政計画に即応してその裏づけをなす年度
予算が編成されているかどうかということでありま
す。個人が経済におきましても収入を見込んで計画的
なことも合理的に使用することが個人が経済のも
とではなからうかと存するものがあります。計画性
のない、いきあたりばったりというふうな経済はそ
う目くらしい経済でありまして私的生活におきま

しても向上は絶対に認められないというてはなにか、公の
経済金く同様でありまして与う限り長期の計
画くとも五カ年位う計画、こゝを見通しを立てて
年度事業を重点的に執行していく以外に市勢
の健全な発展は期待し得ないと思ふべきであ
ります。

市当局は先に長期振興計画を発表さし
たが、これは館山市の発展上、当然のことであらう
と存じます。こゝ長期振興計画に盛り込まれた
ところの理想目標がなくては館山市の健全な
進展、発展はとうてい期し得られないのであります。
こゝ長期振興計画が財政計画と一体になる
関連にあるか、年次の実現することによ
うか、その実現が期し得らるべきか、あります。

その財政的な裏づけがなければ、いかに五派の事業計画画でありましても、それは紙に書いたものや姿ではなかろうかと思つてあります。

昭和四十三年度総予算を審議する場合に、その裏づけをなす財政・五カ年計画というものが樹立されておられ、その計画と表裏一体となつた予算案であれば、審議は月曜に運ぶものと信ずるものであります。

第二点といつて、広域行政に関する問題であります。

本間市長さんは、立候補に際して、十万都市の建設をスローガンにされた。私は記憶しておるであります。この内容は具体的に市長にお会いして拝聴はいたしておりませんけれども、率直に申し上げるなら

は、町村合併と企業誘致によるところの十萬都市
建設ではなからうか。企業誘致は別にいたしまして
町村合併はこれは、県や行政指導や大きな一環で
あろうかと存するやうでございますが、県の指導を持
つてから取り進めようという事では、一体実現は
いつの日になるであらうか。過まう実績を見ますと
それは明瞭でありまして、今う時代は、関係地域や
住民みずからが、その機運を造成してゐるうちに、そ
れに向つて邁進する努力が必要であらうではないな
いか。さう信ずるもありません。そこで、一体、今
まで当局は、この広域行政の問題、特に町村合併
の問題につきましても、いかなる手を打たれたかといふことで
あります。また、その町村合併はいかなる方策をも
つて実現をはからうとしておられるのか。その点をお

尋ねたいと存するやあります。町村合併、地域
の拡大というふうなことになりますと、当然、それは館山
市、総合開発計画に直接関係がある当面の緊急
かつ最大の問題であろうかと思考されるやあり
ます。

次に第三点といたしまして教育振興の問題であ
ります。

本間市長の施政方針演説の中にこう申されて
おるやであります。「目下本市が力を注がなければ
ならぬ点は児童生徒の学習の場、すなわち
環境整備として校舎建築がその主眼であり、
云々と述べておりますが、まさにそのとおりであり
まして教育につきましても、もつとも志実であり
もつとも熱心である本間市政に対して絶大なる

期待を持つてゐります。

一休市財政が富裕であらうと貧困であらうとに
かわらうず。館山市が現在にかかえている学校問題
には、真に率直な立場でこゝに取り組んでいかない
ば、ならない。ことに青少年の教育は、一日もゆるが
せにできない緊急事でありまして、その訂正は許さ
ないものがあると信ずるものであります。ことに本市
がたくさん、老朽化の学校等を多くかかえている。
その腐朽度におきまして、他町村に比較いたし
まして、何かそこにはずかしいところがありは、ないか
と感ずるものであります。

従いまして、二ういった数ある老朽校舎をかかえて
本市は一体いかなる手を打つべきであるか。ことに
学校校舎の腐朽度等を勘案いたしまして

何で計画で新築・政策——見成までに持つていくことがもつとも妥当であるか。一体、その財源は何に求むべきであるか。そういつた具体的・総合的年次計画が合理的に樹立・実施さへまゝで本市のそういつた根本的な校舎の新築・政策にまで持つていかなければならぬ。

教育振興に関係いたしまして以下五点申し上げましてその見解を問うもっております。

第一点いたしましては校舎再建のためう五カ年計画たり、八カ年計画たり、長期計画の有無ということであります。なお、合わせまして北条小学校の再建の計画と給食センター建設の計画につきまゝて御説明をいただきたい。

二点といたしましては、学校統合に関する具体的計画

画があるかないか。ことに本市の僻地とでも申しまい
か。それは、語弊があるかもしれないが、豊
房、山奥、神余の里にあるところ、神余中学校の
問題、或いはなお遠く畑小学校の問題、或いは豊房
の豊房中学校の問題、なおブランクになつてお
りますところの三中の問題は一体どうするのか。こ
ういふ点につきまゝで当局の御見解の披瀝を願
ひたいと存するものであります。

三点といたしましては、教員の配置が一体適正に行
なわれているのかどうか。今申し上げました神余中学校と
か、豊房中学校とか、小学校にいたりますと、畑小学
校等、一体教員がどんな市で配慮のもとにその配置
が行なわれているのか。たゞしも賑やかなものと交通至
便な中心地の学校をわらうのか。これが先生方一般の

心理ではなからうかと存する所あります。従いまゝ
一体どういふ館山市の僻地になるところの学校に
対する配慮が或いは財政的援助が適正に行なわ
れてゐるかどうか。教員にいたしましても無資格の
先生方が何とか。そう日々授業をまかしてゐるとは
私は申しませんけれども。何かそこに手抜きがありは
しないか。私は市内のテストの問題等につきまゝて
ちまつと考へて見ますと進学上のテストの上位を
取つてゐる中学校は二中であり一中でありもつとも教
育至便の中学校が本市におきましてもその上位を
占めてゐるやうな現状でありまして、多くの中学
校の生徒諸君がそういつた上位に進出してゐるといふ
ふうなことは非常に少ない。これはそこに何か欠
陥がありはらないかと考へられてゐるやうな感じが
あります。

ます。従いまして教員の適正な配置ということでは
よほど当局が親心を持って実施しなければ実施で
きない問題ではなからうかと考えるのであります。
なおそれと関連いたしまして、一体小中学校なり、或いは
中学校なり、子供たちの設備であるとか、施設
設というものが、現在が果たりに国などの基準に對
してどう程度かところまでいっておるのか、設備基
準等につきましても御説明をわざわざしたいと存ず
るかとあります。なお父兄負担にかかっているところ
と、PTA会費の問題等に市長さんは、い
つも親心を持ってPTAの会費は極力削減せよ
という御姿勢が、御意図がいろんな面で
伺われるのであります。現状におきましては、
なかなかその意を体してただちにPTA会費を全

廃するところまでは至らうないが、現状ではなかろうかと信じて疑わないです。あります。

従いまして、館山市に存在する中、学校、PTA会費は、どういう現状になつておるのか。

五点といつても、以上申し述べたのでありますが、そのほか、以上申し上げました財政五カ年計画と、市長の標榜するところの十萬都市すなわち、館山市にどう地域を合併させようとするのか、観光という面で見ると、ならば、館山市、富浦、白浜といったような面も出てくるのであり、まゝ、あるいは三芳、館山、富浦というまゝ、面も出て参ります。なお、これをひくめるめまゝ、三芳、館山、富浦、白浜といったような線が出てくるかと思ひます。いづれにいたしましても、三芳、町村は、本市と直接、いたつてあります。又、文化的にも

社会的にも政治的にもいろいろ面で密接な関係がありは—ないか、また現在広域行政が現実に行なわれているうではなかろうか、ひるがえつて見ますと、水道の問題にいた—ま—ても、三芳と館山と富浦がこいに取り組んでおると—うこと、或いは病院等の設置の問題にいた—ま—ても、館山と三芳が組合と結んでおるうではなかろうか。

こ—ういった広域行政の現実に行なわれております。その上にふまえて、何か積極的な誘致施策はなかろうかとこ—う考えるも—うありま—て、市のそれに対する御見解をお伺い—たいと存するうでござ—います。なお今申し上げま—たように教育振興は館山の根本的な問題であります。当局の率直な所信を御披瀝願—いま—て降壇する次第でござ—います。

以上でございます。(拍手)

議長(吉田勇治郎君) 答弁を求めます。

(市長登壇) (拍手)

市長(本間讓君) 五十嵐議員の御質問に對しまして
お答えをいたしたいと思います。

第一点、長期具體的年次計画の樹立。三つうに
とでございますが、昨年、二月に長期計画を皆さ
ま方にお示しをいたしてあるわけでございますが、それに
基きまして五カ年の建設計画を策定をいたしておる
わけでございますが、その途中におきまして、果、六十年
計画の一郡変更というふうな話と、それから広域行政と
いうのが、昨年の十月に発足したわけでございます。一
つ、面を考えた場合に、一時、その検討を備
休んでおるわけでございます。一、カーながら、果、う方も

広域行政の方がある程度、目鼻がつき次第、
 少しとも本年途中に五カ年の建設計画を確立
 いたしたいというふうに考えておるわけでございます。
 広域行政はいろいろ部会がございまして、その部会
 でおのおの検討して、それがまとまると広域行政の
 基本的なものができるようになります。それにより
 み合わせまして、五カ年の建設計画をいたしたい。
 三というところで進んでおりますが、四十三年中に皆
 さん方に御相談をいたして、決定をお願いいたいた
 い。三というふうに考えておるわけでございます。

次に広域行政の今後が見通しについてというところで
 ございますが、果の懸念にすぎまして、館山市と安房郡
 の町村が寄りまして、そうして最近における経済の
 拡大、いろいろ面からして、今までよりような小さい町村

ではなかなか住民の福祉がはかばかしい面があるわけでござ
いますから、そういう広域行政の中においていろいろ負
担を軽減して市民の福祉をはかろうということでご
ざいます。館山市といたしましては、現在では先ほど五
十嵐議員お話をうらうに伝染病舎の組合を三芳と
館山でござっております。また水道組合は三芳と富
浦と館山でござっておりますわけでございまして、これもやは
り、広域行政というふうなことを推進してあるわけで
ございます。

館山市としては、広域行政に期待するところは、やはり
もっと大きな市の規模にするために町村合併という
こともその中においてござい、くべきものとまたござい、こ
うと考えて参加している面もあるわけでござい、ます。
広域行政は消防が一元化とか、いろいろのことがあるわけ

でございますが、去年の十月に発足して今、各郡会
を用いていろいろ検討してゐるわけでございまして、まだ
広域行政連絡協議会々そういうことがまとまつて
おらないんですが、近くこゝがでることと思ひまして
私も、こちらから、館山市にふきわし、町村合併
を呼びかけていくつもりで、そういう大きな果
施策々中において広域行政の中において、町村合併
を推進することが隠々かでもある。市民々方も納
得するのではないか。大きく期待をしてゐるわけで
ございます。私も、市長という立場もございまして
広域行政連絡協議会々会長、こういうことで、
いろいろしてゐるわけでございまして、この成果を上
げて大いに住民福祉にたいへんえたい。というふうに考
えてゐる次第でございします。

次に教育振興計画についてということでございしますが
五項目の御質問でございまして、詳しくことは
大体教育委員会が担当しておられます。教育委員
会の方針御意見ももちろん当然のこととでございま
す。さういふと教育長からお答えをいたしたいと思います。

教育はもつとも重要な仕事でございまして、私も三本
柱の一つとして教育問題については大きく考えて対
処しておるわけでございしますが、今まで教育の目に見
えない仕事としては神戸小学校の改築、あけは鉄
筋第一号とてやったんですが、近くは房南中学校
の建設、これはもうすでに御決議を願っております
すが、建物についてはさういふことであるわけでござい
ます。

館山の教育関係を考えで見ますと、やはり学校施設、校舎が非常に老朽化しておるわけですね。これは御指摘のとおりでございますが、これは何とか立派な校舎の建築というところに力を入れていくことは当然でございます。館山市としては現在市民生活の基本的環境整備ということに力を入れておいて参ったわけでございますが、トーンあいの焼却場も作りまいた。尿処理場もできまいた。水道も富崎水道も十二月市会で御決議を願っておりますが、組合水道は着々おろりまいて、それから市民センターですね。市民の文化向上、或いは体育の場として市民センターも四月いっぱい完成して五月一日に竣工式をやる。こういうことでございますが、これはやはり市民の文化、或いはまた観光の面においても

重要な建物であるわけでございますが、そういうふうに
市民生活の基本となる仕事を大体四十三年中にこ
らうこととおおむねさまで完成するわけでございます。
来年度からは私は教育施設について大きく力を入
れてゐて参りたいと考えておるわけでございますが、
また、もう一つは道路、市道が狭くて、せうかくの救急車
とか消防ポンプの恩恵に浴さない道路が市内には
たくさんある。そういう道路をだんだんに改修してど
こへでも市道である限りは消防自動車、救急車
の恩恵に浴させるようにしたいと考えております。
来年度からは本年は北条小学校並びに北条幼稚園
の用地の買収を現在やつておりまして九〇%位、大体
買収ができたわけでございまして、本年中にこれを埋
め立てを完了しまして来年度とその後を四十四年

四十五年、二カ年で五ヶ村北条小学校、幼稚園を建設したいというふうに考えておるわけですが、まずが、それから給食センターですが、今、豊房館山、富崎、那古、三ついう三ヶ村でPTAの方からお骨折りで給食施設ができておりますが、今、各地から市中で作ってもらいたい。三ついう要望がございまして、大体今、考え方では幼稚園と小学校、中学校合わせて約一万人ということで給食センター、そういうものを作ろう。三ついうことで本年度予算にはこの調査費を計上してありまして、これを二カ年位、計画でやっていきたいと考えておるわけでございします。

四十四年度からは何回も申し上げますが、教育に大きく力を入れてやって参りたい。

それから、その計画画のことを御質問でございまして、

リ、そういうことでございしますが、そういうことで対応しておるわけでございします。

話はいろいろになりますけれども、町村合併とか海
の開発ということについては、正月の課長会議にお
きまして、私は広域行政の中において、町村合併は
進まよると思うけれども、館山市は館山市として
意見がなければいけないから、町村合併に対する適
正な研究をして基礎を作つて、そして議員の方
方々に相談して進もうではないか。これは、正月早々
の課長会議でございします。検討中でありま
す。館山市の開発についても、そのときの課長会議で、
館山市総合開発について検討して、成案ができた
第、市議員の方々と関係者と協議して、確
立しようというものでございします。

話はいろいろになりますけれども、町村合併については、
一昨年でいなか、近隣の三町村長さんと第一回の会
合はやはり見たわけですね。お互いに研究して見よう
ではありませんか。そういう話はしてありますけれど
ども、なかなか、これを推進してくためには、たにや
ると、向ミの反感をかうし、むしろいいことですから、
慎重に対処していかねければならぬと思います。が、今
市の方では、どう位の規模がいいか。現在の経済情
勢からいろいろのことを研究して、こちらの方で腹
をきめて、そうして広域行政を通じてなり、いろい
ろの方法で推進していいミ。こういうことでございます
それから、PTA負担の軽減ですね。これにつきまし
ては、御承知のように、小学校は義務教育で教
科書は無償で配布するということですね。これは

憲法にも、そういうふうになっているらしいんですが、
そういうときに市で当然、まかなわなくてはならない
施設、或いは学校の備品ですか。そういうものま
でも、PTAから負担させている面が相当、今ま
であつたわけです。私は三年位前から、そういう
あり方は間違つてゐる。ですから、そういうPTA
Aの会費の中から、当然、教育に必要なものは
出してもらうことは、やめてもらう。そして、市の方
で予算でやる。四十二年度においては、前々年
の実績によつて、約四百八十万円、PTA会費輕
減の処置がしてあるわけです。それでも、なかなか
うまくいかないんですが、これには、いろいろ事情も
あり、まゝうけよとも、PTAとしては、PTAを
運営するだけ、会費をお取りになるのなら、私は

結構だと思ひますが、市でまかなわなければならぬものに對してのもは、好意的に父兄の方はやつて下さる。その點はわかりますけれども、やはり金のある人はいいにしても、金市民的に考えて見たときに、そういうことはやめるべきではないか。ただ、父兄の中で、自発的に寄付を申し出るという方は、それは大いに歓迎——なくてはならないと思ひますけれども、会費として、広く生徒の父兄から取ることは、いけないと思ひ、私に思ひ、軽減のため、処置をしておるんですが、これは、そういつては悪いんですが、昔から、情性がある、学校の先生と父兄というものは、口で言わない面が、実はあると思ひます。ですから、父兄の方は、負担してやろうということ、で、学校の方もやつてもらうのは、結構だ。教育が向上するから、だから、こういうことで、うけけれども、いつまでは

私はすいと思います。東京都の教育長は命令で
全廃した例がごいます。各地でもやっております。
最近北条小学校の校長さんは卒業記念の記念品
そういうものを辞退してやはり父兄の負担軽減を
はかっているということはまことに立派なことだろうと考
えております。どうも先生生徒父兄ということは何
れも言うに言われない点があつてPTAの会費軽減
減がはかれない面もそこにあるのではないかと思つてわ
けでございしますが、先般西岬の中学校で校長室
と玄関を作るにつきまして一戸当り五百円平均に
父兄から徴収してやったんですが、そうときにPTAの
会長さんがこれにまゝで三千万円はPTAから出す
からあと三千万円市から出してくれという話がありました
が、そのとき私はいったん断つたんです。そうして学

校の建物を文見から取るといふことは税金の二重負担になる。そういうことは私は絶対にやらないからだめだ
という事で私は帰っていただいたんですけれどもそ
う後、こゝにまゝて、実は会費を取りである。二十
周年記念事業として特別認めてもらいたい。
こゝにいうことであつたんですが、いかに財政が薄弱な館
山市といへども、学校を施設するに五十万、六十万
が出せないことは絶対ないわけですから、今後私どもも
大いに教育委員会を通じて文見の負担軽減がは
かれるようになおいつそうして参りたいと思ひますが
そういうことで一応前にも申し上げてござりますけ
いどもお答え申し上げたわけでござります。
あと、このことにつきましては、教育長の方から答弁させ
ますから、よろしくいであうか。

(教育長 登壇) (拍手)

・教育長(押本穂逸君) 五十嵐議員さん、質問の中で教育に関する問題につきまゝてお答え申し上げたいと思います。

ただいま市長から数々の教育に対する考えが述べられ、わけがございしますが、多少、それと重複するところが出てくるのではないかとと思いますが、お答え申し上げます。

第一番目、校舎再建五ヶ年計画、或いは八ヶ年計画というものがあるが、こういうことでありますが、こういふ校舎再建計画につきまゝては、非常に膨大な予算がつくわけでございまして、五年なり、八年先の予算までにはなかなか確たるものかと考えられますので、はっきりとして、録打った計画を持っておりません。

いども当面教育委員会といた一まゝで計画されて
いたものが四つほどあるわけでございます。

それについて申し上げたいと思っております。

その第一は房南中学校の改築の件でございますが、
これは市内中学校の中では不通格校舎、これは矢
舎を敷用して作っております。採光・通風等特に
悪い不通格の校舎として果ても認めておるわけで
ございます。さらに舊老朽校舎としても認めらる。

こういう校舎でございますので、まず第一にこれにつきま
して改築策をお願いいたして、市長さんのお話
のように昭和四十二年と三年、二年間にわたりまゝで
予算をお願いいたして、特に本年度もそれら予算を
議会にお願いいたしてあるわけでございますが、まる二月二十
一日に第一棟の入札が富士土建に落札いたしまして

たゞいま房南中学校の建築の第一歩が——るま
つつあります。昭和四十三年度内に全校舍が竣
工完成する予定でございます。

第二の校舎の問題は北条小学校並に幼稚園の
再建計画でございますけれども、まず昨年末に
開発公社にお願いいたしまして敷地の買収に事
かかっているわけでございますが、本年度のうち三
三〇〇〇平方メートル約一万坪の埋め立て造成を
お願いして四十三年度の予算の中で校舎の建築
設計を専門家をお願いする予算等が、お願
いしてあるわけでございますが、これから経まして
特に館山市の中央の大きな学校でございまして、
五階の設計になる北条小学校並に幼稚園が
四十一年度以降なるべく近い機会に予算化されて

建築されますように今、そういうことを進めつつあるわけでございます。

三番目は給食センターの建設の問題でありますけれども、今、館山、那志、豊房、富崎と四つの小学校に給食が実施されております。二つ、それ以外の学校は自給給食実施でござりますが、その後、那志、船形地区、或いは館野、九重地区、その他から給食をしていくという強い要望がありますので、ただいままでにもいろいろ研究しておりますが、特に四十三年度は研究視察、研究費という調査費をお願いしてございまして、それらを経て、大体、最近、給食施設の状況を見ますと、各学校二つにいたしますよりも大きくセンター方式というふうなものになりかわりつつあるわけでございまして、できることなら、教育委員会

では幼稚園、小学校、中学校全部約一万人位
 になるわけでございしますが、一万人位を対象とした
 完全給食をする。そういう具体的な点につきまして
 調査・研究をして立派な給食センターを作って
 完全給食をしたい。こういう気持ちを持っているわけ
 でございします。

そう次には統合の第三中学校という名前にはござい
 ませんが、計画の中にはそういう考え方もござい
 ございますが、そういう計画を房南中学校の次にせ
 びお願いしたいという点も考えているわけでござい
 ます。二番目の学校は統合の計画に関する具体的な計画があ
 るかないか。こういうふうな点についてでございすけれ
 ども、終戦後のベビーブームの児童、生徒たちが大体昭和
 三十一年頃をピークといつたままいて児童生徒数が

減少一つあるわけでございます。一学級数等も今まで減りつつある状況でございます。一小学校でも中学校でも、学校統合という問題が全国的なことでもあるわけでございますが、そう一市中です。まず、中学校の統合というのを考えたわけでございます。それは、市内にただいま七つの中学校があるわけでございます。が、一番大きな篠山二中、四十五年度を境にして考えますと、千六百三十一人という二中、かう一番小さい神余は七十九人三学級という非常な格差があるわけでございます。なお先ほど申し上げましたように生徒の減少というふうなことを考えますと、一市でも統合して適正な規模の学校にして同じような校舎、或いは職員や配置、こういう中で教育をすることが望ましいというところで、四十五年度に学校統合

問題、審議委員会というところにお願いたして、御答申を得、その後教育委員会で審議いたしまして、七つ中学校を四つに統合する計画を立てたわけでございます。その内容は特に地域とどうような問題をからみ合わせなければならない、ただいま一中学校区、房南中学校区はそれだけ、そのまま独立三中というわけではないのですが、あと二中、三中というふうなことで仮称でございます。そう二中は現在、市立第二中学校の館山、北条の北条地区と四中地区、こいを合わせて一つの二中なら二中、あと館山地区と西岬中学校、豊房中学校、神余中学校、こいを合同して三中というふうなことにしようかな計画が現在出てゐるわけでございます。三という三にしますと大体九百人から千人

程度のところにまとまる予定でございします。

次に三番目の教員の配置が適正に行なわれているか
というふうな御質問でございします。特に中学校の
教員配置につきましては終戦後には教員の非常に
に払底した時代でございまして、思うような免許状
を持った先生がおられない時代もございまして、創
設以来二十五年を越えるというふうなときになりまし
た。小規模学校や定員が足りないところは多分
問題が残りますけれども、普通学級以上の学校
は適正の有資格者がそれぞれ配置されております。
しかし特にどういふ点に問題があるかといえますと
現在では体育の先生と音楽の先生が思ひうよう
にいかないで、臨時免許状というふうなことであつて
いる場合があるわけでもございします。

[illegible]

特別に予算的な交付金等もくるわけでもありません。非常力に力をいれてやっているわけでもありません。

四番目の学校の施設設備の基準の現状といふことでもございますが、大へん専門的なむずかしいことでございまして統計的になかなかうまく出ないわけでもございますが、設備の方の特別教室というふうなものにつきましては文部省で示された案があるわけでもございますが、そういうものにつきましては大体充足しております。それでございしますが、特別教室等の中には、全部で二校の小中学校の中には音楽室が二つ用だといふところが一つしかないといふことで、百三十教室の中で九教室足らないといふことになるわけでもございますが、授業にはそう支障がございしません。率にして申し上げますと九三%の充足率でござ

いますから不足はセムというふうなことでございます
次に器具・教材・教具等、設備基準、状況で
ございますけれども、机・腰掛等、教室に要する
いろいろ器具につきましては大体支障がない状
態になっておりますが、教材・教具につきましては
又都省の教材基準というものが去年までありま
したもので、大体八・九〇％まで各校入っております
今度去年の十二月に全く新しい立場に立った教材基
準が示されたわけでございまして、これを文部省では
十回に整備するようにというところで示されているわけ
でございます。当市におきましても、去年、今年も
市にお願いいたしまして、予算が許せばもう少し早
く充足していただくような予算化を議会にもお願
いしているわけでございますが、ただいま、それら台帳

を整理しつつ不足のもの等につきまゝて検討をしてゐる最中でございます。

五番目は中学校のPTA会費の問題でございますけれども、会費の問題については市長が先ほど申し込まれたように数年前から父兄負担軽減ということでは教育費の中の需用費、或いは教材費、こういうものに毎年何百万という増加をしていただきまして、今年度のPTAの予算の中、PTAの予算には大体PTA運営費というPTA自身を運営する費用とそれから学校後援費、こういう二つの大きな項目で予算が組まれているのですが、その学校後援費というのは校長さんとPTA会長さんにもお願いをしまして全面的に削除していただきまして、現在PTAの会費の現況ということになりますと

四十二年度において御報告申し上げますと一中で
 その前は百円だったものを八十月に二中七十円・西岬
 中五十円・房南中五十円・神余中三十円・豊
 房中六十円・四中は五十円・三ということに現在な
 っているわけでございます。以上お答え申し上げます。

○大番(五十嵐昇君)先ほど市長さんからつぎの
 一てーかも親切な御答弁をいただいた。一、ございま
 して、その御答弁にまいります。大体のところは了承し
 ながらございまして、私う考えてまいりますところは五
 派な長期振興計画といったような立派な計画が作
 られておるのに、これに付随いたしまして、その裏づけを
 しますところの財政的措置の問題がまだ作られて
 いないというところでございまして、これは車の両輪に
 するならば、一輪で来てあと一輪欠けておる。従って

車が動かぬという二ことになりは—ないかと存じます。で、
その点どうか、一日も早く五カ年なり、八カ年なり、財政計
画をお立ていただきたいと思つてあります。もちろん政
治は生きものでありまして、流動性もよくあります。
従つて五カ年立てにならば、その五カ年をその基準でし
ばつてやるのでなくて、五カ年中には年々、コッテンボが早
く流動性になります。そのときにおいて変更、訂正
を加えれば決してそのことにはらぬない。私はこう信ず
るものであります。従つて早急にその裏づけを
打すところ、財政計画を樹立していただきたいとい
うのが、私、希望の一つでございます。

それから広域行政の問題であります。市長さんはま
だ広域行政につきまゝては、果の広域行政審査会とて
申しますか。そうした機関の活動を待つておきたい。

三ついう言葉もあつたように伺います。先ほど私が申し上げましたように果て行政指導は区域施策に対するところの行政指導をまつてなつてゐる。いわゆる館山市が具体的なものという機関を持つて、そうしてむしろ館山市が誘致のさしづへの手を打つべきときではないか。あまり過るうことにとらわれておりますと、延びてしまふ。従つて現時点におきましては早急に合併促進委員会とでも申しまゝうか。そういった機関を作つていただきます。市長会談と合わせて、そういった下部から盛つたての機関を私は作る必要があるのではないか。消極的施策よりも積極的施策でござむべきである。こゝろ私は信じて疑わないのであります。それと、合併地区の住民の自由意思というものはもちろんでありますけれども、市が

大きな態度をもちまして、そういった誘致の手をさしあげる時期にきておる。従いまして、私が見解といった一見、早急にそういった機関を作つて、三町なり、三町なり、すなわち三芳とか、或いは富浦とか、或いは白浜等、三つともを早急に合併実現させまして、その上に財政措置、総合都市計画というものが立てられますと、具体的な館山市の大都市計画というふうなものが樹立されるのではなからうか。こんなふうに考へる方がございます。

それから第三点の学校の問題でございます。市長さんが親心を持ってPTAの削減等に大きな予算を二かかり審議にかけるというふうな御説明でござい、まするけれども、これは本当に市長さんが名市長である。教育に熱心な市長であるという二つとて、補

ております。そう名にふさわしい裏づけではなからうか。二う存ずるもよくございます。

従いましてこれにつきましては教育長は市長の首を汲み取りまして、そういった面で極力本市教育の発展のために御尽力をいただきたい。ことにPTA会費の削減等につきまして市長さんはまほど親にがあるけれども下部においては、それが徹底しないので市民の負担に対して大きな負担をかけておる現状でございます。従ってそういった意を体しましてPTAの選賞はともかくといったしまして、後援費、これを私は全廃にまで持っていくことが理想ではないか。そうためには市は特に大きな予算を組んでこれを財政的に裏づけしていく。援助していく。二ういうことでありたいと思っております。それによろしく、本市がま

化都市として銘打す取ずかしくない熊山市ができて上
るうではわかるうか。こう考えるもふーでございます。
なお教育長さんの御説明にすりまゝで私う五点にか
かわるところ御返答をいただいたわけでございます
けれども大体了解はいたしたもののう。まだ何か
そこに納得しない点もござります。また、各教科教材
等の充足率等につきましても大体八・九〇%
の基準まで持てゐておる。なお台帳をよく整
理してあと一〇%を十ヵ年計画の中に盛り込ん
で、そうしてこゝろ充足を期するというようなお義
でもっともございまして、早急にそういつたものの計
画を具体的にお作りいただきたい。計画を作つて
実施さへたいことを要望するもふーでございます。
なお教員免許状等におきまゝでいろいろ僻地の

学校と申しては、語弊があるかもしれませんが、いともともすると少数の利益が無視をされる。

三、この現況にありまゝで、たとえば畑であろうとも、神余であろうとも、ともに館山市民として同様の教育上の利益を私は与えていかなるべきである。三、存じます。予算措置の問題、或いは教員配置の問題等につきまゝでは、十分親心を私は要望するものでございます。なお給食センター等につきまゝで、これを作るといふ説明がありまゝ、たけいとも、二、三なども、早急にこの計画を作つて、何年計画で一体どこに作るんだという目安は当然あり、かゝるべきである。三、存ずるものでございます。

一体館山市の小中学校の生徒の体位が果下りどう初にあるのか、或いは全国的に見てどう位う基準にな

なるのか、欠陥はどこにあるのかという点を究明していただくまで、具体的明解なる施策をほどこして、どうしてわが館山市が農村部におきましても都市部におきましても、同様に体位が伸びていく。それにはやはり、給食センターというふうな同一の給食をほどこして、これを合理的な運営によって実施して、ということであらば、館山市の児童の体位は全面的に平均して伸びていくのではなかろうかと存じまして、早急に給食センターの設立を希望するものでございます。

個々な点につきましては、またいずれ一般質問にゆずりまして、あまり小さな点は後日にすることといったしまして、親切丁寧な御説明をいただきまして、私としては大體了解した。二つ存ずるもの

でございます。ありがとうございます。

議長（吉田勇治郎君）一六番議員、通告質問を終
ります。

次に二番議員石井輝久君御登壇願います。

（二番議員 登壇）（拍手）

二番（石井輝久君）私は昭和四十三年度当初予算の審
議に先立ちまして当面しております熊山市政の喫
緊と申される諸問題につきまして、端的に御質
問申し上げ、本間市長並びに関係責任者、所信
を伺わんとするものでございます。

第一点は熊山湾の総合開発計画についてござ
います。

二点に関しましては市長さん、昭和四十三年
度施政方針にも触れておられるところでございます。

御同慶に存する次第でございます。ことに館山湾の
開発を施政方針の最初、第一点としてお取り上げ
になつておられることは、まことに當を得ているものと市
勢発展のための賛意を表するものでございます。
さて、一から七がら、風光明媚な館山海岸は、残念
ながら本間市長さんが御指摘になられまゝたとなり
一季型観光海岸であることは論をまつまでもございま
せん。これを四季型観光に移行させようとすることは、まこ
とに同感でございます。最近では、ほぼ館山湾の一部埋
め立てにつきましても、市民の大方の賛同を得てきたよう
であります。世論の帰趨もおおむねから同意の方向に
あるように伺われるのでございます。そこで私は一
歩を進める意味でも、次は諸点につきまして、具体
的に伺いせんとするものでございます。

まず第一は埋め立て地の最終使用計画を承りたい
のでございます。県といつてもましてはすでに千葉県
道路観光公社で昭和四十三年度に約六億円の予算
で埋め立てり実施に当る所存であるように承つて
おるものであります。一々もこの公社の計画案によ
りますと造成いたしまして埋め立て地内に道路駐車
場、公衆便所、三つ三種目を公共施設といつても
て整備する方針だと承つておるものでございます。
果たしてそうとなりてありますか、どうか、お知りにな
つてゐる範囲でお答え願ひたいのであります。

次に第二としまして、この道路観光公社の公共施設
整備計画と並行いたしまして、最終使用計画を実
行に移すお考えでありますか、どうかについてお伺い申
し上げるものでございます。過去におきまして、当議会

で私は御質問申し上げたことがありまして、その際御
答弁をいただきました。某民間会社が最終使用計画を
果す公社の公共施設整備と並行いたしまして着工す
るつもりありましようか。その点をお伺いいたいた
います。もしそうとするならば、その時期が見通
しもお伺いいたいたいたいます。

第三に最終使用計画の具体的な設計はどんな工
になるか、お示しのかを承りたいと思っております。

もしその某民間会社が担当するといったまゝで
その会社は株式市場に上場をいっていないことが御
答弁をいただいて明確になつておるわけでございま
す。あるいは、たゞ事業の実施に当りましては、日本の
た事業会社、すなわち、てきますならば、第一部株
式市場に上場をいっているような確実な会社を、選定

していただきまして、将来にいさかかも不安を感じさせたいようにすることが肝要だと思っておりますが、今後の御計画をお進めになる上で、二点御方針を承りたいと考えております。

第三点に観点をかえまして、北条海岸と八幡三軒町海岸についてでございます。

目下、平久里リ河口から、すなわち北条横橋に向ける一、運輸省の計画によつて、護岸工事、海岸侵食防止が実施に移されておる中でございますが、二、計画が推進されて参りますと、あり、護岸は一体どうあたりまで、あと何メートル位延長されるかとございまして、三、二点をお伺いいたします。

続きまして、計画の最終年度は一体いつでございまして、二点を承りたいかとございます。

さらに続きまして計画の最終的護岸と北条橋との間、海岸線は大体どう位になりますか。つまり本當の海岸線、護岸をしてない海岸線は一体何メートル位残るのか。さらに引き続きまして今までのような護岸、すなわち波がえしと通称言っておりますが、あり護岸が延長されるといいたりますと海水塔に重大な支障をきたすようになるのではないか。ますが、その点につきまして計画の必要がおわかりになったり、お答えを願います。

灰關するところになりますと一部住民から護岸工事に必らずしも同意できないと意見が出されていると伺っております。——私は海水塔に重大な支障をきたさない設計になっているとすれば、伊豆方面の先進地、海岸護岸で現実に見られる不

でございますが、秋来いつ起るかわからない天災、夏
 帝事態に備えまして、あらうか、ため護岸をして、おく
 りが、私どもに課せられた政治的責務であると考えら
 うでございます。私どもは生存中幸いにして天災
 がないかも知りません。一か一ながら起るかも知り
 ません。ごく小さな確率であっても、私どもは百年に
 一度襲われ、或いは五十年に一度襲うかも知りません
 異常時に天災に備えまして子孫を守つてやる
 政治的責務を持てゐるわけでございますまいか。
 この点についてお考えを承りないでござります。
 これを要するに、一季型海岸を四季型に移行せしめる
 ため、生け垣、堀、溝、一つと言ひながら、館山湾の
 総合開発は、千葉県立安房水産高校の移転を
 含めまして、また海水浴場を受け入れ、態勢と埋め

立て施設の造成、護岸とイバランスを十分に御勘案の上推進していただきたいと心からお願いもしております。

質問の大きい第二点は館山市の窓口、玄関にともなうべき国鉄館山駅を中心とするものもろう計画について伺いを申し上げます。

運輸省、国鉄、県等の方針を仄聞いたしますと駅の両口の開設が決定的であるかどうかに承知しておるまいでございます。この点お知りになつてゐる範囲で時期など御答弁を願ひたいのであります。

続きましてその場合の西口から海岸の方に向かっての道路計画はどうなるか、ございましょうか。この点をお伺ひいたします。また引き続きまして商店街の計画もあるやに承わつておるまいでございますが、

これに関しましてもお答えを願いたいんですが、
 すでに踏切以北、あから北の水田を買上げが、
 市長さんはじめ関係者、御努力と地え市民の
 犠牲的御協力によりまして本決まりとなつたそう
 でございますが、まことに結構なことで、操車場の見
 通しが確定いたしたわけでございます。五月には
 日下整備、一つある駅周辺の諸計画が進みま
 すとバスが発着が五車線になるとも聞いております。
 今は三車つまり、三台のバスが各方面に向かふ出
 発いたします。それが五月からは五台が出発す
 るようになっていると聞いております。そうなります
 と駅前ロータリーが運転上支障をきたすことにな
 ると聞いておるんですが、これを取りはらう
 お考えはないものでございまいしょうか。もしなしと

するならば、せめてもう一メートル位削る用意はござい
ますまいか。お伺い申し上げます。以上が質問、第二
点でございます。

第三点はいわゆる王申戸籍の保管、現況と今後の方
針についてお伺い申し上げます。申し上げるまでも
なく、現行憲法はあらゆる差別を認めておりません。
私どもは昭和二十二年まで千葉県華族、士族、千葉
県平民、千葉県新平民といったような身分上の差
別を公然として受けておったのでございます。一々し
ながら新憲法改りもとにういった戸籍上の差別
は一切撤廃されたのでございます。この差別の
底流は明治五年にかか上るものでございまして、明治
新政府は、この年、明治五年とき、あたかも十
ニ支で王申に当たるものでございまして、徳川三

百羊の長きにわたりまして、歳と一、身分上り差別を甘受せざるを得なかつた士農工商の四階級をかなぐり捨てたのでございます。百姓と町人をも身分上り差別をなくしたのでございます。

ここで明治維新の志士たちは自分たち階級すなわち武士階級だけは、士族として残しておき農工商の三つを合わせて平民と呼ぶことにしたのでございます。徳川時代の士農工商の四階級の戸籍に実はその下に穢多、非人というものがあつたのでございます。これは木へんに歲月の歳としという字ででございます。またないという字でございまして、これは片かなうたを二つ書いた多、というところでございます。穢多とは人に非と書くのでございます。明治新政府はこゝに穢多

を平民の下に置きまして新平民と呼んだのでござ
います。こゝすなわち明治五年の新戸籍世
に言う王申戸籍というもう内容なものでござい
ます。華族・士族・平民・新平民という四つが身
分差別が生じたわけでございます。こゝは幾多の
悲劇を生んだ。身分差別でございます。島崎
藤村の破戒という小説にその差別が表現され
ておるでございます。

新憲法下 私どもは華族も士族もなくすべて
国民は法のもとに平等となつたのでございますが、
如何せん。こゝ王申戸籍の閲覧可能により
ましてかつての新平民が世に知れず平等に立
結婚の悲劇。また就職できず、自暴自棄になる
という弊害を生んでいる事実が現存するので

館山市議会

でございます。そこで私は次う諸点につきまゝて
具体的に伺いを申し上げます。

この戸籍の保管は二月末日現在う時点であ
つていたか。二月末日現在う時点であつてい
たうでございまいうか。同じく同日う時点で関
覧についてはどうなつておりましたうか。さら
にごく最近 法務省民事局長名う通達 がこ
れに關しまゝて出ているはずでございまいか。
受け取つておりましたうか。この点を承りた
いうでございまいか。さらに引き続きまゝて県下
各市町村う王申戸籍の現況はどうなつており
ましようか。この点も含めて承りたいうで
ございます。さらに今後裁判所乃至は地方法務局
にこの戸籍を移管するお考えはないかどうか。

最後に閲覧禁止の措置を講ずる意思がございますか
どうか。お伺いを申し上げたいと思います。以上が
質問の第三点でございます。本間市長へ並ぶに
関係責任者より明解なる御答弁をお願い申し上げ
まして質問を終わります。(拍手)

議長(吉田勇治郎君)答弁を求めます。市長

(市長登壇)

市長(本間譲君)石井議員の御質問に対して
お答えいたしたいと思います。

第一点の館山湾総合開発計画についてでございますが、
御承知のように館山湾は東京湾の入口でございます。一
いゝんな手ぐみにおきまして全国にたり影響を及ぼして
わけてございますが、一かーながら最近観光的にも大
きく海が利用されなければならぬと考えるわけでござ

います。従来、館山湾の開発計画というものができておらないわけでございまして、おうおう今までの習慣といいますか、いろいろ関係によってあれが利用されておるものが現実であるわけでございまして、が、今、当面する問題としましては、館山湾、鷹島、あや付近は商港というような関係になつてゐるかと思ひますけれども、あそこにはえさいわしがたくさん入つておりまして、これもいろいろ問題点があるわけでございますが、えさいわしが館山市としても、産業として育成しなければならぬわけでございまして、あそこにはおりますと、えさいわしが水がうまぐ、変わらないで、しずむが多うございまして、漁業家の方々は船形や港々入口に消波堤、これは七八億かかるそうです。そういう計画もされておりますし、それから

現在知事が懇話会にまゐりまして、観光的にもう少し館山
は知らなくては、という事で埋め立てをするという方向
で現在進んでおるわけでございますが、それに対して
水産高校の移転問題もできております。いづれに
しても海に關係があるわけでございます。

また四十八年国体のヨット・ハーバーですか、館山であるとい
う問題もあります。非常に最近におきましては海が
いろいろ検討しなければならぬようなことであるわけでござ
います。先ほども申し上げましたとおり、市としま
しては正月に課長会議におきまして、館山湾の開
発について、みなして研究して成案を得たら議員の方
々並びに専門家の方々を交えて、委員会を設けて
検討して方針を確立しよう、ということ、現在進
んでおるわけでございますが、その具体的なこととい

も現時点におきましては、埋め立て問題、水産と
 高校の移転問題とか、消波堤の問題、ヨット
 ハブの問題とかいうことでございしますが、にか
 く、そういうことを一応もといたしまして、観光の
 ももう一歩進んで熊山港を有効にする計画を
 立てたい。こういうことで現在検討中でございま
 す。そう中におきましていろいろ御質問ございま
 すが、埋め立てでできたそう上に、県の方で駐車場とか
 共同便所とか、公共用地、そういうものも、案がある
 ことはどうか。こういうことでですが、県の方はあれを
 使用するうちは一切市の方にかかせる。最初から知
 事と話を合いができておりまして、県の方から、
 別にそういうものはきておりません。それから、あそこ
 を熊山は夏だけの観光ということで、一応観光

面に発展してありますけれども、三つ、いろいろ施設もできてきます。受け入れ態勢も整つてきます。まあ、この機会にやはり四季を通じた観光というところで進むことがもつとも大事ではないか。三つ、考えからいたしまして、そう一環として埋め立てをして、そこに観光施設をしようというところでござります。大体、現在、計画は、熱帯植物をたくさん入れて南国ゲートを打ち出して、そとにいろいろ計画をきいておるわけですが、海洋博物館とか、或いはプール。プールは、今、私がお願いしていることは、温泉プールみたいな感じで泳げるような施設をしてもらいたいというところで、大体、やる方々も、そういうことで進もう。それからスケートもやるようにする。まあ、いろいろありますが、それからボーリング施設、ホテル、フリッジ、その他、

展望台もできます。相当私は施設で人が集ま
るものと確信を持っておるわけでございますが、
詳しいことは何か機会にすつかりきまつてから申し
上げたいと思いますが、大体そういうふうな構想の
もとでござろう。それをやる会社についても、いろいろ御意
見がございましたけれども、この会社は現在平砂
浦のゴルフ場、あゆを二十億かけて立派なもうがでさ
て館山市の観光施設とせば、どこにもない位の立派
なものを作つていただいております。本当に感謝して
おりますが、今度はさらにあの会社が観光施設をやるの
に、こういうことで一応果す方も話はついておるわけであ
ります。いろいろ御注意がございまして、もちろん
慎重を期してあると、いろいろな問題が起るにしま
う。対処して完成を期したい。こういうふうな考えで

おるわけでございます。

開発につきまゝでは、そういう内容でございますが、市
において原案がてき次第、みなさん方とともに検討し
て五派の開発計画を樹立したい。こういうことござ
います。

それから国鉄館山駅を中心とする諸計画についてで
ございますが、これは御承知の如く、みなさん方ととも
運動いたしまして四十四年、七月に電化複線がはから
れるというところで、今、電車が入るかえをまつたりする
用地も、地元民の協力できまつたわけで、本当に感謝い
たいなと思うわけでございます。それと同時に館
山駅も開通する前にやるという考えのようでござい
ますね。それは別としまして、前から鉄道に陳情
しておるわけでございますが、それは現在、海岸にい

くお客さまが非常に不便だから西口を設置して
もらいたいということを鉄道当局に再三陳情して
おるわけでございますが、鉄道では電化、そのときに
考えている。こういうことになつてゐるわけでございます
す。鉄道からまだ相変もございせんけれども、そ
れが実現する場合には、やはり市の方にもいろいろ
要望がくる。よその例を見ましても、要望がくると
思つています。現在う館山駅は観光が一番大切
な海を背中にしつて館山駅を降りてお客さん
が海はどちらにいくんですかと聞く。本当に観光
館山と一まゝでは西口を設置しなければならぬ
わけでございます。西に設置に伴ひまして海岸
に道路の整備また、その近所に商店街を造
成をいたしたい。こういうふうに考えておりますが、

また駅が新築された場合には市が観光案内所も駅
の中に取り入れてもらいたいと思うんですが現在の
観光案内所は駅からロープウェイを歩いてこなければ
なりません。非常に自動車が大変に通りまいて
危険性がございいますからどうしても駅を降りたところ
にある必要がありましてそれにつきましては自動車区が
あそこを改築してもらいたう。自動車区の方に頼んでおき
まなければいけません。自動車区が奥に引込んでおりますけれ
ども、自動車は降りたところにでなければいけません。
そうでなければ駅の方にいけません。こういうことでございま
すが、これはやはり館山駅を中心としたいろいろな
ことについてまいてはまた検討してもらって皆さん方御意
見を伺って善処いたしたい。こういうふうに考えてお
るわけでございします。

落ちております。また戸籍の点につきまゝでは課長に答弁させていただきますから、私にはあまり詳しく専門的のこととはちよと申し上げられません。羽山課長からいたしますか。（拍手）

（市民課長登壇）

市民課長（羽山房雄君）王申戸籍の保管の現状と将来の方針について御質問に対しましてお答えいたします。王申戸籍の保管の状況ですが、大正五百六十四戸籍を五十五冊に分けて、コンカーに保管しております。

保存年限については、当該年度の翌年から一十年であります。王申戸籍が廃止された年、明治十九年から教えまゝ昭和四十一年の末までで、保存期限が切れておりますが、廃棄の処分をするには、法務省の許可を必要とします。しかし

現行の民法の相続関係で王申戸籍を必要とする
場合が少なくなつてゐる。そのため法務
省では現在のところ廃棄の許可をしない方針だ
と承わつておられます。そのような事情からい
て将来王申戸籍の保存については現状のまま法
務省の指示を待つまい。たう方がございせん。

先般国会においても王申戸籍の閲覧または謄抄
本を支付についていろいろ問題がありまして、新聞紙
上等で種々報道されておりますが、本年一月十日づけ
法務省民事局長通達によりまして当該戸籍いわゆる
王申戸籍に記載されてゐるもの親族以外は閲覧の
請求に応じてはならないという取り扱ひになりまして、

それまた特に必要がある場合において王申戸籍の
謄抄本を請求があつた場合、現行法において定め

る事項以外に記載、これを省略して交付するようになりました。これはわかりやすく申し上げますと、その当時「いゝい」呼称、前科等のある場合は、その部分を削除するようになっていることでもございます。さらにまた本年三月八日重めて、法務省の民事局長の通達がございまして、主申戸籍の閲覧は全く禁止されたものであります。なお、謄抄本のことにつきましては、戸籍の記載事項証明である。すなわち本籍氏名、生年月日、父の氏名、続柄、死年月日等を記載したものを交付するのみになりました。ただいま申し上げました点で一点、二点、三点、大点の御質問は、各市町村の現在の保管状況はどうであるか、この点は以上申し上げましたとおり、現状でございまして、大半

が保有されてゐるものと推察いたします。なお五
目う移管する考えはあるかどうか。法務省・裁判所
等に移管する考えはあるかどうか。という質問で
ございます。これは金国や戸籍連合協議会等
の要望事項として取り上げられておりまして、今
まで実現はいたしません。が、さういふ実現方を
強かに推し進めて参りたい所存でございます。
当市といたしましては、この通達に従ひまして、閲覧
謄抄本や交付並ぶに保管につきまして十分留意を
いたしまして遺憾がないよう処理しております。
以上お答えいたします。

議長(吉田勇治郎君) 二番議員の再質問を保留とい
たしまして、午前十會議はこれにて休憩といたします。

午前十一時五十二分

休憩

午後一時

再開

議長（吉田勇治郎君）午後のお席議員数 二十五名

休憩前に引き続き会議を開きます。

御了解を求めたいと思います。二番議員に対する
答弁が漏れた点が二点ございまして、引き続き二番
議員に対する答弁を求めます。

（市長登壇）

市長（本間義君）石井さんに対して何かミミになると

あがらうからね。すかません。きょうは傍聴人も
たくさんいらっしゃいます。なお駅前ロータリーで
ございまして、あれは前からいろいろ話があるわけだ
よ。自動車が通りが激しいから、あれを小さくしてもらいた

鉄道からも話があるて検討したんですが、現在植えてあるやしろ木とかが枯れるようになってはいけなから、今うままというところで現在進んでおります。立派な椰子があるて南国ゲートを打ち出してゐるんですから、ああいう植物に対して被害があつても困るという二とでございます。が、電化して駅を改築するとう場合もございます。駅側と相談してよく検討してみたいと思います。

それから平久里川の河口の砂の侵食のお話ですわ。あゝは石井さんが御心配なように私もああいう状態ではどうも避暑客のために不便でもあるし、潰滅に思ふ点がたくさんあります。私も土木出張所長に話したんです。あゝ以上延ばさないで、ういたい。ーかー。それがために危険になつて砂が、

だんだん振れて危険になるということであれば別です。が、現在以上をうらないでもうらない。こういうことで、要望してありますよ。四十三年度一三四メートルですか。これはリッパローの方の護岸をやって来年は海の方はもうないですね。四十四年にやる計画があります。が、それにつきましては、全く相違して海水浴客やなんかは不便をきたさないようにやって参りたいと思います。以上です。

(企画課長 登壇)

企画課長(谷見茂生君) 石井議員さん、御質問、防潮堤のことでございますが、現在、計画内容につきましては、今、ロープを申し上げたいと思っております。

富士ディセル、下から四十一年に工事が、北の方に向かふ行なわれまして、四十一年に二七メートル、四十二年

に一七メートル、四四メートルが一応見えてゐるわけであつて、四十三年度はそれから、館山大橋の方に向かつてさらに一〇メートル予定で、四十三年度は完了しますと、全部で五七メートルということに相なるのでございまして、四十四年度から富士デューセルウ下から北条海岸の方へさらに延ばしていくということと、全体計画では一、四三メートルということになつてゐるようでございます。ただいま、市長の方から話さいますように、四十四年度からの富士デューセルウ下から北条海岸の方に向かつて、工事につきましては、海水浴場との関係もあります。そして、砂地が侵食されてくるようであれば、工事の方を考へていかなければならぬということと、二つは十分、今後、状況を見ながら善処して参りたいということ

でございます。追加補足説明いたします。

・二番(石井輝久君)午前中に引き続きまして、午後におた
つて答弁いただきます。たわけですが、質問の第三点
の国鉄館山駅周辺への諸計画につきましても、御
答弁で了解いたします。なお、市長から御答弁
たまわりまして駅前ロータリーへの件につきましては、
御答弁で承知いたします。これは質問ではあり
ませんが、意見として五月以降バス等のふくそうが
当然予想されるが、事態に即応して弾力的に
お考えいただきたい。もちろん、市当局だけのことで
ございません。国鉄との関連がございます。た
然令的によく御勘案の上、善処していただきたい
と思ひます。これは意見でございます。

質問の第一点をあつて、質問の第三点で

ございます。

第三点、二月三十日現在、保存の状況、これは先ほど課長さんから、御答弁でまわりました。

次に二月三十日現在、閲覧の状況はどうであったか、どういう状態にあったか、閲覧を禁止していたか、閲覧させていたか、部分的に制限を加えていたか、そういった点を御説明願いたいと思います。引き続き、まず、県下の各市町村、現状につきましても、大半の市町村が保有しておるといふ答弁でございまして、それはちよと、私の手元のデータベースは若干違っています。ケースを上げて御説明願いたいと思います。

裁判所、法務局へ、移管の御処置を取るかどうか、というところでございます。これは進めるという答弁

でございます。了承いたします。一早く国の機関に移管をするようにいつぞう御努力をお願いしたいと思います。

次に質問の第一点でございますが、埋め立ての千葉県道路観光公社の四十三年度の計画の中に公衆施設といっております。道路公衆便所、駐車場。この三つが含まれるようになっております。でございますが、先ほど市長さん御答弁ですと、果て責任において埋め立てだけは実施する。あとが地上使用計画を一切市にまかしている。かような御答弁でございますが、道路観光公社の四十三年度の案を見ますと、その三つの公衆便所、道路駐車場が入っております。これは事務的なことでございますが、もういつべんも伺いたいと思います。

それから、それに並行いたしまして最終使用計画す
むわち具体的に地上使用計画をお進めになるのか
どうかをお伺いします。

それからさらに先ほどの市長さん御答弁の中にかた
具体的に計画が進行しておるけれども、大事業であ
るから、将来禍根を残さないように慎重を期してい
きたいというふうな御答弁でございまして、たゞ一
応了解いたして質問は打ち切ります。最終
使用計画の業者の選定に当りまして、くれぐれも
将来に禍根或いは不安を残さないような選定を
していただきたい。これは意見でございしますが、考え
おります。

それから北条海岸、三軒町、八幡海岸でござい
ますけれども、最終計画年度ということは、これも事務

的になります。御答弁をいただいております。で、お聞かせ願いたい。それから、最終年度、堤防と地糸棧橋という距離が何メートルであるか。二は計画でありますから、変更もありません。その間におきまする地え住民の要望によってかわることもありましようけれども、その点、御答弁願います。

御答弁によりまして、再質問いたします。ちなみにいま再質問中、二月三十日と申しましたが、二月三十日はございません。二月二十九日でございまして、訂正いたします。

市民課長（羽山秀雄君）お答えいたします。先ほどお答えした中に、法務省の民事局長の通達が一月十一日、三月八日、二回出ていることを申し上げましたが、一月十一日の通達によりまして、従来の閲覧のうち

特に王申戸籍につきまゝては親族以外へ閲覧に供
してはならない。請求に応じてはならない取り扱いに
なつたので、二月末も二ヶ月取り扱ひで参つております
なお三月八日より通達によりまゝ全面的に閲覧を
禁止しております。他市町村の保管の状況でござ
います。が、私も二ヶ館山支局管内の例を見ます
に大体大半の町村が保有されておるようによ承知
しております。金果下に於ては承知しております。そ
うしお答えにならないかと思ひます。その点おこわ
いたします。以上。

市長(本間 譲君) 埋め立ての事は一応果て開発
公社であるということであるようでございます。けれど
もそんなにも分かるものなら館山市の公社でもあり
たいと実は考えておるわけですよ。

せうかく館山市にも開港公社がございますから、それ
でやるのが幾らでも館山市のプラスになれば、そういう
埋め立てをやるのがいいんではいいかと思ひますが、それ
もまた知らずと誤をして見さうと思ひます。

—カー、何といひますか。—
二から折衝です。

です。から、あんた、道路開発公社からお聞きに
なつたかもしよせんが、私の方から言つて二ないです。

それからいつあつたかできるかというふうでございま
す。が、四十三年度に埋め立てを終了し、四十四年度には
その施設を完成するようになつて進んでいきな
い。こゝうに考へておるわけでございます。

二番（石井輝久君）質問に対するお答えは、市長さん
御答弁、従来、果ては道路観光公社埋め立て案
に對しまして、新機軸と申しますか、一応、市の開発

公社でやって見たらというふうな一つアイデアでござい
ますが、打ち出さしたわけではございますが、なお御検討
をせられまして慎重を期して市のためになるような
具体策でお進めいただきたい。要望いたしまして、こ
う点に關する質問を終ります。

なお、護岸關係の事務的でございしますから責任者、
課長さんから御答弁いただきたいと思います。護
岸の最終計画年度を固う方針ですが、お聞き
になつてゐる範圍でお答へ願ひます。それから、今度の
設計は今までどのような被がえであるかということも
御質問申し上げたはずでございしますか、御答弁が
ございせんか、その点御答弁いただきたい。

それから、戸籍の閲覧状況に關しましては、ただい
ま二月二十九日の閲覧状況につきまゝでございます。

御答弁御了承いたしまして。なお、県下各市町村の保覧状況がわかりになっていないという点でございしますが、県下に市町村は九十三あり、そのうち佐倉、東庄、千鶴、三市町村には現在保覧しておりません。ほかのやうな役所の中には戸籍がございせん。こういうデータもありますので、そういう御検討下さいまして、こういうことで誤まりのないように、かりそめにも身分差別という事態を起さらないように、そういう御注意をお願いいたします。従いまして、質問の第一点は全部了承いたしまして。質問の第一点の中、ただいま申し上げました最終計画年度と設計につきましても、御答弁を願います。

土木課長（飯田治男君）計画の最終年度につきまゝでは
一応四十七年というふうになっておりますけれども四十
三年度で現在できておるところから、館山大橋の方
に工事を実施し、さらに四十三年の予算に残りがで
きた場合、北条海岸の方に向かつて富士ディセルの
方が疎れておる水路がございます。そこまでは一応
現在のような波がえしをついた護岸を実施する計
画にたずねております。それからさらに北条海岸の方
にあらいう波がえしでなくて階段状になす。現在正
木の川崎の海岸に施行してあるような設計で北条
海岸の方に約セロメートル実施する計画になす
おります。そうしますと一応北条海岸の侵食防止
計画の全然ないところは北条校橋から渚地先の約四
〇メートルが残るようなわけでございます。

〇二番（石井輝久君）御答弁でよくわかりました。そこで
 先ほども御質問申し上げたんですが、一部の方々か
 ら、護岸をみると海水路客の誘致その他で支障
 をきたすということから、計画の一部打ち切りと申し
 ますか。護岸を延長しないようにという要望があ
 ったように承わっております。私質問の中で申し
 上げたんですが、災害というものはよく申しますが、
 忘れた頃にはやってくるという言葉がございすん
 災害を予期した災害というものはあまりないで、
 予期しないからこそ、災害ということになるので、
 ことに天災という異常な事態は予備観できな
 いのが現在、科学でございす。従いまして、北条
 海岸の津波ということも、かつて記録を見ますと
 体験をしておるように聞いておりますが、将来五十年

或いは百年にいつてんというまうな異常時に備えま
してできますれば、護岸をして海岸の侵食を防
止すると同時に人間、生命或いは財産を未然に
完全に守つてゐるという御措置を講ずるゝが至
当だろうと思つてゐます。そこで、これは市の事業でな
くて、国、県の事業でございますから、市がどうし
うという筋でもないでしようけれども、最終計画年
度が一応四十七年度ということにございます。

それから設計も北条校橋に向かつてセロメートルは
被がえしてなぐて、階段式のものもあるように御答
弁いただきました。その傾斜が何度位のものである
かわかりませんが、おそらく海水浴に支障のないよう
なでゐるものはないかと思ひます。もし、そうだとす
るならば、できればならば、計画を推し進めて、いまだく

が、市御当局、長い将来に対する一つの施策ではなからうか。こゝように考えます。

その点、御当局、こゝに市長さん、こゝを総合的に海水浴客の誘致と、それから海岸の侵食防止と合わせて、将来の天災時に備えるという総合的な調整をおとりになす施策をおし進めていただくのが、市御当局、長い将来に対する一つの施策ではなからうか。こゝように考えます。

その点、御当局、こゝに市長さん、こゝを総合的に海水浴客の誘致と、それから海岸の侵食防止と合わせて、将来の天災時に備えるという総合的な調整をお取りになつて、施策をおし進めていただくように要望いたしまして、質問をこゝで終ります。

議長（吉田勇治郎君）二番議員、質問を終ります。

次一九番議員島野茂樹郎君御登壇願います。

(一九番議員 登壇)

。一九番(島野茂樹郎君)質問に先立ちまして若干御訂正をお願いいたします。

印刷配付されております。一項目う終りう方に地方自治法と書いてありますけれども、これを地方財政法になおしていただきたいと思います。それから二つ目

、最初昭和二十二年五月三日と印刷いたしておりますけれども、四月十七日というふうに御訂正をいただきたいと思います。

私は超額負担の解消、並びに地方自治法制定記念行事の設定について、こゝ二つ点について御質問を申し上げたいと思います。

まず超額負担の解消という点であります。

日配付を受けまいに主な超過負担事業調査の資料によりますと二千五百万近い超過負担がなされてゐるという数字が出ております。こゝ資料にさう考えさせられますことはなぜ、こゝうな余分な負担をさせらるゝかあるか。さういふことであります。いろいろ考えて見たわけですが、いふことも、こゝ超過負担の中には、又う二つがあるやうであります。一つは、単価の差によるもの。それからもう一つは、数量の差によるもの。こゝ二つがあるやうであります。例を不適格校舎建築工事に見ますと、補助単価は一平方メートル当り、一万五千六百円というふうになっておりますけれども、実際は一万八千四百七十七円、一平方メートル当り、かかる。さう差が二千五百四十七円、こゝは余分な持ち出しとなつて

いるわけであります。つまり国で定めている単価、二
では実際には校舎は建たない。現状に合わない単価
がきめられている。こういうことになろうかと思ひます。
また改築する校舎は不適合なり。或いは老朽化した。
そのため改築をするわけでありますけれども、その
全部が補助の対象になるというわけではない。
つまり実際に建築面積と補助面積との差が数
量う差として金額市費でまかなわなければならなく
なる。一かもそう補助対象面積にいたしましても
一〇％交付されるというわけではないようであります。
公営住宅の建設にいたしましても或いは消防施設
を作るにいたしましても、或いは消防施設を作るに
いたしましても同じようなことが言えるようであり
ます。さらに国民年金事務、或いは国民健康保険

の事務費、保健婦の設置費など、これらも一
 %充足されるというわけではなれど、政府の算出の單
 価では支弁しきれない。従つて市が余分な負担をさ
 せらねばならない。これが現状で超過負担であるように
 思います。また、こういうふうなことは、それでなくても
 乏しい市の財政をさらに苦しいものにしてゐるわけであ
 ります。また政府自らが法律の規定を守らない
 ということになると思います。先だつて、新築である
 市の市長さんが、この超過負担の解消のため、
 国を相手に訴訟を起す、ということを考えてい
 るというふうな報道があつたことを記憶してあります。
 けれども、市長は地方自治体議員の責任者で
 ありますから、いくら超過負担を解消をしようと
 いうことをめざして、国に対しては基準の引き

上げ或いは法律で政令で定めるとおりの補額交付について努力をしておただかなければならぬと考えるものであります。この点は、おそらく今までにも努力なされてきたと思います。そのもようとかうに今後どうように対処していくかある所存であるか。お伺いをいたしたいと思ひます。なお、地方財政法の第三十条の二の規定にしますと、国に対して意見を申し出たり或いは国会に意見書を提出しようという事柄がでるまうにきめられております。そういうことを通じて国に改善を要求をしていく。こういう所存はないかどうか。この点についてお伺いをしたいと思います。

二番目、地方自治法制定記念行事の設定についてであります。けれども現在、地方自治法は戦後民主主義の進む中で昭和三十二年四月十七日公布をされ、その年

五月三日新憲法とともに施行をされたことは私が
改めて申すまでもありません。そうして二、新しい
地方自治法に盛り込まれた民主主義的な内容特に画期
的なものと言われております。第一の特徴は住民の選挙
権、被選挙権の二つを擁護を基礎にいたしまして
知事、市町村長、直接公選制度が実施されたこと
ということ、いろいろな行政委員会なるものが執行機関
へ参加し、道が拡大されたこと、議会も権限が強
化されたこと、さらにいろいろの直接請求の権利が与え
られた。こういうような住民の直接間接に政治に
参加できる制度を設け、いたしまして、住民自治の
拡充をはかっていることが第一の特徴だ。

それから第二の特徴といつては、国と地方自治体と
の関係についても権力的な関係でなしに指導、助

言という非権力的な関与に限るやなという方向を示しており、まゝ國の統制、或いは監督權を制限するにまゝを原則としてゐるということ。それから教育、警察や教育行政などを自治体に移したのをはしめといひ、また多くの事務を自治体行政に移したから財政権を明確化した。二つらう点、すなわち自治体行政権の範圍と權限を大幅に拡充したといひ、まゝに団体自治の事務をいっそう強化したことである。二つなふうの特徴を大きな二つの特徴として、さういふようなことが言われてゐるわけでもあります。

一、かりながら法律の上では非常に民主化されたわけですが、いふまでも、必ずしも、当時實質が伴わなかつたといふことが言えるわけであり、それが、それは、當然、戦争前の民主主義的な訓練の道といふものが、

非常に残った。そういうところに民主的な法律ができてきたというわけでありますから、実質が伴わないうこととは、そういう事情の中では、むを得なかつたものと思われ。——カーナバラ、ともあれ、地方自治法が制定されて今日では、もう二十年を経過いたしました。その間に大へん多くの改正を経たということであり、すけれども、——カー、この間、地方自治というものは、年々発展をしてきていると考えられます。私どもは、さらにこれを発展させるために住民の一人一人が自治体構成員として、自覚を持って、自治意識を高揚することが必要ではないかと思うわけです。——この画期的な法、本旨を市民の中に定着させ、職員には法の精神をかみしめるといふような日といった——まいて、この地方自治法公布の日、即ち

四月十七日を記念して何か記念事業を計画すべきであるというふうに考えるわけです。どういふことがいいかということは私もちやうと持たないという事ではございませうが、たとえば記念講演会を開催するとか、小冊子を活用いたしまして、地方自治法の意義を解説する。いろいろあらうかと思ひます。ともあれ、記念行事を行はう御意思が市長におありかどうかという事でございします。率直に御意思をお伺いしたいと思ひます。

私、質問は以上二つであります。が、明解で簡単に結構でございますから、御答弁をお願いいたします。私、質問いたします。(拍手)

(市長登壇)

市長(本間 譲君) 島野議員、御質問に對しまして、お答えいたします。

超過負担金、廃止或いは基準の引き上げという非常に適正なるお話でございます。私もそれは本当に痛感しております。このことにつきましては、いろいろ全国市長会を通じいろいろ検討されておるわけでございます。千葉県市長会におきましては負担金等審議会委員会という会を組織いたしましていろいろ市町村に課せられた負担金、いろんなことにつきましてそれをやるべきか、やらないでいいか、或いは額をこの程度にしたらどうかということまで細かく検討してこれに対処しておるわけでございます。全国市長会におきまして、これについていろいろみなさんが真剣に考へておるわけでございますが、当面の問題として、これは、国保の事務負担金、国保関係の仕事が非常に市町村を圧迫しておるわけでございまして

ニおいては特に陳情して政府にお願ひしてあるわけでございますが、市長会におきまして、こういう話もたくさん出るわけですから、国民年金の事務費とかそういうものが予定通りよこさないで、政府のやってくる仕事は全部返上しようではないかという議論さえ出ているわけでございます。この問題につきましては、全国市長会におきまして、慎重に検討して、島野義真さんのお話にそうようにお考えであるわけでございます。今後におきまして、いっそうよく考えて参りまして、幾分でも市の負担軽減をはかつて、市民の福祉の仕事を一たけよばならぬことは当然であるわけでございます。今後ともそれで大いに参る考えであります。

それから、地方自治法判定が昭和二十二年四月十七日

というところで、判定によりましてさっきお話しは
うに地方自治は非常に躍進をとげて参つてお
るわけでございまして即ち民主的自治運営が
なされておる。こういうことであると思ひますが、こ
れを記念して自治のあり方を一般に周知徹底さ
せるということも非常に意義があるわけでござい
ますが、館山市といつては、まだその計画を立
ててございませぬ。一か一かながら、昨年、十一月です
か、地方自治制定二十周年記念というのにお、東京
目北谷で大会がございまして、その中におきまして
館山市は事務改善のことで表彰をされたわけで
ございしますが、これは本当にみなさん方、御協
力と御理解によつてできたわけで、本当に結構だ
と思ひます。地方自治法の記念事業は国では、

そういう団体、或いは個人もたくさんあったと思いますが、
そういう行事が昨年、日以次で自治省主催により
まゝ行なわれたわけでございます。本年はそういう
計画はございませんけれども、来年は館山市制
施行三十周年に当るかと思ひますが、来年度におき
ましてまた考えて参りたいと思つたわけでござい
ます。今々ところはまだ何も計画されておりませんやうな
わけでございますが、以上でございます。

・九番(島野茂樹郎君)超過負担の問題について
一応市長会等を通じて真剣に取り組まれている
ことが、このことについてはよくわかります。特に国保、或いは国
民年金事務、これは全国的に共通してございしますやうで
そういう広い大きな力として市長会が御意見といひ
ますか、そういうものが国に上つておることと思ひます。

けれどもその他にも、学校を建てるにいたるまでも、或いは公営住宅を建てるにいたるまでも、それぞれの市町村が、この超過負担という事については大へん苦勞を起しているところであらうというふうに私は考へるわけですね。單価と實際の差といえますわ。そういうふうな事と、これはやはり國保事務、或いは國民年金事務費、そういうものと合せて機会あるごとに國に對して意見を起して是非改善について御努力をいたさなさいと思つたわけですね。ただ、地方財政法が二、三條、二という規定でございますけれども、これは、まずと國の支出金、算定、或いは支出金、交付に當るべき、付けられた条件、その他支出金、交付に當つて示された指示、その他行為について不服がある地方公共団体は、自治大臣を経由して意見を申し

す。または内閣を經由して国会に意見書を提出する
ことができる。二うううふうなきまりがあるわけであ
ります。二う点については御答弁がただけなかつたわけ
ですが、二ううう法令上、権利といえますか、二うう
もうを利用、活用いたしまして、国に対してう番々
見出す申といえますか、二うううことも超過負担
を解消する上に大きな力になるうではないかという
ふうにかえるわけですが、二うについて、御意見見を一
つ伺いたいわけですか。

それから自治体の判定記念行事でございしますが、で
たら秋は毎年四月十七日と言いますか、二う日を
記念する何らかの行事を行なう日、二うううふう
に、館山市独自として二う日という二うことではありませ
んが、二うとも、二う日を中々として、毎年一回は市民

中にこれを定着させる。職員の方々は自治法の精神を自分たちの仕事を考え合わせて反省する。そういうような目。そういうものを作ったらどうかということをお願いしているわけですが、きたる四月十七日は目う前であります。今、すぐにとこうと。いうこともなかなかできかねると思ひますけれども、来年度は市長さんおられるように三十周年記念だというようなことであります。是非とも、このことも計画の一つに入れていただいて、私どもが享け受けております。地方自治のありがたさ。そういうものを、市民のみなさん方とともに反省し。それしてさらにこれを発展させ、私どもが市をより住みやすいようにしていく。そういうようなことをするようになる。一つ、御計画の一つに入れていただきたいという

ふうに申し上げます。それでは財政法三十条の二が規定の活用についていまだ一度お伺いたいと思ひます。

(市長登壇)

○市長(本間 煥君) 超過負担の解消基準の引き上げ等につきましてもはたがいま申し上げましたように法律で定めらるる範囲内におきまして、全国市長会を通じて自治省、或いは内閣、或いは政党等に陳情して、その実現を強力にせよとおるわけでございますけれども、今後もお話うような趣旨にまよひまして、なおいつそ、せよ参りたいと思ひます。

○九番(島野 茂樹郎君) 地方財政法三十条の二の規定の活用について、明解な御答弁ではないかと思ひますけれども、一カー、全国市長会等を通じて、

とにかくこの超過負担の問題については御努力をくださるという御確約でございます。私に三以上は質問をいたしませんか。是非超過負担の問題は全国的な問題として各町村、或いは都道府県についても問題にならなくてはならないことの一つだと思います。そういう機関が全国的に起こっているときでございます。ぜひ一つ御努力を心からお願い申し上げます。私の質問を終わります。

議長（吉田勇治郎君）一九番議員の質問を終わります。

次四番議員伊賀多朗君の質問を行ないます。御登壇願います。

（四番議員 登壇）（拍手）

四番(伊賀多朗君)定例会より冒頭本間市長より昭和四十三年度施政方針演説におきまして市長より市民の福祉のために全智を傾ける姿に満腔の敬意を表する次第でございます。

私は熊山市発展のために以下個々の点についてお伺いし、私といたしましてもしつそう努力する所存でございます。

お伺いいたします第一点といたしましては市役所の職員定数が増加しておりますという点でございます。

さらに市民課が新設されまして窓口が一本化され市長のいう親切さが浸透いたしまして市民はひとく喜ぶう弁にひたすいるところでありまして、ただいま各地から視察がきびすを接しておりますというところであります。事務改善とは仕事うやり方、その職員数の合理化

を示されてゐるものと存じます。が、仕事やり方
の合理化については、一〇％削減したぐらいでございませう
か。さらに職員や定数や合理化に関しましては、事
務改善や前とあとで、どうように差があるうてござい
ましようか。二点について御説明をいただきたい
のでございます。ただいま承りますと、事務改
善につきまして表彰されたということと、まことにおめ
でたいこととでございますが、さらに将来において事務
改善を一段と進めていくお考えでございませう
か。でございませう。その具体的方法をお示しいた
だければありがたいこととでございます。この際もこと
も大きな問題は、職員や定数が増加するという
こととでございます。将来さらに増員する意向がお
ありでございませうか。将来市民へサービスで

仕事も多くあります。いさう事務改善を進めて合理的組織だった仕事ややり方もとに仕事をやりやすくしていただきたいと思ひます。多くは仕事をほとんど処理するという意味で、少数精鋭主義とでも申すべきものかと存じます。この点につきまして、さらに現在以上に各種機械の導入が必要ではないかと存じます。電気計算機による計算の能率化、エヤシットによる連絡事務の能率化等種々考えらるゝあります。

以上職員の定数をふやすお考えがあるかどうか、さらに事務改善の行なわれた前後の違いを説明いただいて、その観点から今後の事務改善についてはいかように考えていらっしゃるか、お伺ひいたしたいところでございます。

次に三月四日に館山市企業誘致委員会開かれ
のであります。

私はその席上で工場誘致の場所は平久里の
周辺に限っているか、将来他々の場所も必要に
なるうではないかと伺ったことがあります。これは
将来館山市が發展していく際に工場、観光
施設、ほかにも学校など文教地区、住宅地区
また商店、問屋街など、いわゆる町づくりの構
想が是非必要であると考えたからでございます。
館山市の新しき都市計画のもとに市民の發展
をはかつていただきたい。企業誘致を含めた館山
市都市計画ができていくかということであり
ます。

この点につきましてはすでに質問された石井議員

五十嵐議員より重複を避けまして若干うお願いとお伺いをするものでございます。

一言、いいますと果ても昭和六十年の目標にいたしまして、新しい長期の計画を作成されておるということであります。市当局といたしまして、速やかに市町村合併をいたしまして、観光計画、開発計画を広範囲に長期に樹立していただきたいと思ひ申し述べらるものでございます。

館山湾開発計画、質問についても割愛いたします。ただ、この問題で特にお願いしておきたいのは、館山の湾の開発が進んで参りますと海水浴場が非常に狭くなつて参ります。また又士や詩人に書きかつ歌わせた多くの人々を招いた房州の自然の風致もできるだけ

残しておいていただきたいと思います。

また、漁業に従事される方々、海岸に生計を立てていらっしゃる方々、そういう方々お困りにならないよう、な方式を十分お考えいただきたいと思います。埋め立て地の開発、埋め立て地の使用方法、項について、割愛いたします。

最後に二つ問題について一つ大きな質問、提案事項があると思いますが、二つ埋め立ての下部といたしますが、下の部分といたしますが、いろいろ話が出ておりますが、その下の方に汚水、終末処理場を設けていただく考えはないのかどうか、二点が第一点でございます。既に先に行なわれまいた全員協議会、席上で申し述べまいたが、二つ問題は、地域住民の健康に直接つながる問題であり、

ます。また将来観光地として発展するためには衛
生的な清潔な町、きれいな海として現時点から
考慮すべき問題と考えます。市内の下水を
整備し、拡充することはもちろん必要であります。が
そう終末処理場が是非とも必要と考えます。
また、二、陳海に湾に面した地域、内地地域、釧
路市全部、終末処理場等がどう位か、必
要かという二ことも合わせて、伺いたいだけには幸い
だと思ひます。

また現在、水産高校の跡は、どううに開発するお
考えですか。どのような種類、企業を迎えるつもり
ですか。お考えがございませう。合わせて伺い
たいと存じます。以上は、釧路湾に關してで
ございませうけれども、さらに内地方面の開發計

画はいかでございましょうか。本県、北部、いわゆる果北におきまゝでは、内陸に工業地帯が延生し作りかかっているかあります。

工場関係につきましては先に申し述べましたとおり、企業誘致委員会の方で述べました通り、隙は割愛いたします。

現時点におきまゝ市役所、近くは官庁街というものがはた市民センターが新しく誕生いたします。近く教育センター、北条小学校も引き続いてくるようであります。南高校も近くございします。あたかも文教地区という観を呈して参ります。そこで第三点として伺います。それは先に市長も言われておるところでございしますが、京葉工業地帯、臨海工業地帯、ベッドタウン

はどうかに作るかということでございます。

又敷地区とでもいうべき市役所周辺、それから館野方面に及ぶ地域に新しい産業がない手である方々、ベットタウン、緑のいという場を造成してあげたいもうと考えます。さらに、ミニ通勤駅か、貨物駅を考へるべきではないでしょうか。その駅からさらに長須賀、新宿にかけてベットタウンを広げて参ります。いは、館山市といふ、まゝでも、格段の発展になると考えますが、いかばなものでございましょうか。今まで館山市、海岸の開発のことについて申し述べまいが、市民の住居のために、いという場として、館山市、今述べまい、いわゆる後背地、今述べまい、ことを含めまい、後背地、開発に御注目いたさないところでございます。

開発計画の質問は以上で終了です。

第四点といたままです。給食センターのことについて伺いたいと思います。先ほどの質問にありまう点は割愛いたします。

一番問題のことは給食センターができる前、現在の各学校の給食の現況は、いかがでございますでしょうか。お伺いできたらと思います。

生徒児童の体位が給食のために向上しているということでは、やはりしないところでございます。

ところが現在、身長とか体重とか胸囲などの計測におきまして、総合的検討がなかなか徹底して行なわれておりません。ここに専門医の参加が行なわれなければならぬと考えます。胸部の結核の問題とか、全身の栄養状態の明確な

把握とともに身長・体重・胸囲など総合診断を
してその診断の結果とこれから作るという給食セン
ターというデータと合わせて深く検討しなければな
らないと考える方がございます。三に今までの診察
だけをする医師の立場とともに積極的に児童の
健康管理をして生活指導をする管理医師として
もいうべきもので必要を痛感するものでございませ
う。市当局の御見解をお伺いいたしております。
かかる観点から給食センターの完成・活動の一日も
早からんことを祈りますとともに次世代の健全な
発育を心から願うものであります。以上四点につ
いてお伺いいたします。よろしく願ういたします。

(市長登壇)

市長(本間 譲君) 伊賀議員の御質問に対して

お答えいたします。

まず、定数関係でございますが、市役所の仕事は年々増加して参ります。が現状でございます。一か一人をふやせば、それだけ経費がかかります。そのため、ほかの事業を圧迫することは当然でございます。まして、このことにつきましては、いづれ町村におきましても考えさせらる点でございますが、私は市長に就任いたしましてから、まず伊賀さんの御質問のように人件費を節減するということに力を入れます。いろいろ検討いたしまして、結果、事務改善ということでは踏み切らず、昭和三十九年四月から窓口一本化をはかつて参ったわけでございますが、それにつきましては、当時大体七八年も続いて臨時職員が五六十名ずつといったわけであります。が、その事務

改善によりまして、それらをも、ぜひ見解有いて
そのために臨時職員はなくなつたわけでございまして
その後そのまま運営で現在運ばれておりますが、
非常に順調なる運営がなされております。ただい
まお話しのように方々から視察にくる方もたくさん
あるわけでございまして、これはまあ一応成功したと
私は考えておりますが、その事務改善関係の職
員につきましても、當時はなかつたままとなっております。
す。また今後におきましても、その面については人を
ふやさずに現在より人員で事務改善事業を
やっていこう、こういうふうに考えておるわけでござ
います。一かーながら、市民福祉増進のため
には、やはり時代に即応した仕事をしなければ
いけないことは当然のことであるわけでございします。

が、そういう意味におきましてたとえば今度う
市民センターとか新しい事業に対しては人がいるのは
当然のわけでございます。その中でも現在現
場の作業員というものが四、五十名おります
が、これは臨時雇いの形でまゐります関係上、
そういう方は基本的に面白くないわけでござい
まして、やはり正規の職員に採用することが本人
のためにまた市にとっても考えなくてはならぬというところで
二、三のうを今度には正規の職員にするために定
数が上がったわけでございますが、これは実際上人
は、そのままおるわけですね。その他いろいろの事業が
行なわれまして、それゆえにふえていくというものが
現状でござります。――カー、ただいま申し上げま
――たように人件費というものは非常に丈へんなわ

けでございますからなるべく人をふやさずにそう
して市民にふり以上サービスをしてもらうことを
基本的に考えて対処しておるわけでござります。
ただいま事務改善の前とあととどうう関係かとお
やうにですが、これは今申上げましたとおり最初と
今はかわらない。今後ともこの方向でやぞ参りたいと
思います。

私は事務改善については窓口が行き届かない点があ
って、私が考えておることと違っておる面があり、市民
に迷惑をかけておることがありまして、窓口に対す
いサービスがでるようになすに係長を窓口に一人
置く、そうして話相手にもなる。そうして遺憾な
ないようになす。こういうふうを考えておるわけで
ござります。

事務改善については将来どうしてゐるかというお話うようでござりますが、これはもちろん時代が進歩とともにそれに対処していかなければならぬと思ひます。最近、甲府市で課長制を廃止して非常に事務の簡素化みたいなものをやっておるんですが、きょうもさっき、決裁を一人です。が、餘りから、その状態を見ていると、いいというやうなわけでは、ううふうにやっているか。いいところをこっちに取り入れて、やはり時代に即応した事務改善をもとに推進していただきたいというふうに考えておるわけでございます。それから、それから現在、定員を将来もふやすか。どうかというお話うようでござりますが、現在の時点におきましては、これで当分、やそいかなければならぬ。また、やそいつく考えでござります。

次に館山市総合長期計画のうち都市計画、いろいろありましたが、この点については先ほど総合開発については一部石井議員さんとききに申し上げましたが、それからで、お取っ取りいただきまして、住宅関係についていろいろお話がございまして、現在住宅をどこにやるかというふうなことで、現在長須賀方面の熊野神社の裏、あう付近を住宅地として開拓していきたい。それから昭和橋のところの隣に近いあう辺も住宅地としてやり参りたい。それから那古う正木方面も考えておるわけでございしますが、いざいまいしてもこれは五カ年の建設計画の中でまた御相談いただきなうと思ひますが、今はそういうことでとりあえずやっております。

それから工場敷地等につきましては、通産省で工業

適地という調査がございまして、その結果、現在昭和橋のところが正木地区になりますかね。あの辺七、八万坪が工業適地に通産省から認められたわけでございます。あ、付直を一応工場、建設地域ということでは進めておるわけでございます。

現に昭和電工があの所に移転する中で敷地の買収をそろそろ大体まとまったのではないかと思います。約三千坪だそうですが、あそこらはそういうふうに考えておるわけでございます。

それから町村合併を推進して観光とかいろいろ面で大いにやったというところでございますが、これは先ほども申し上げたとおり、おととー近隣三町村長と会ってそうときはお互いに考えていきないうことではあったんですが、前々、議会から

要請もございます。また、近隣町村の意向も聞いて、現在市におきまして町村合併の元を検討して案を立てて、そうしてみなさん方に御相談してそれを推進していきなさい。という事でございます。

観光施設ができるについて、そう付直う住民なんか被害のないようにというお話しのうに承りました。だが、その点につきましては、住民本意でも考えなくては、いけませんから、これは遺憾のないように対処して参りたい。というふうに考えております。

それから、汚水処理の問題でございますが、これは、まわめて観光都市館山といたうまうては重要であります。伊賀議員はお医者さんでありますから、専門家でございともな事と思ひますが、これは、つきましては、保健所の指導をいただきまして対処して

参りたいというふうに考えておりますが、今、どういふふうにとっても、ここで答弁する段階ではございませぬから、御了承願いたいと思います。

それから、給食センターのことにつきましては、教育長から、是体的なことを答弁させます。それから、現在の時点におきましては、給食センターの調査費を今議会に提案してございます。

教育委員会の方から、応開発公社に向かつて、何とか一干坪位確保できませんかという要望は、出ておるわけでございます。私も、この給食センターは、児童生徒の健康に関する問題でございまして、から、なるべく早い機会に給食センターを作つて、児童の体位、増進、健康管理という面で大きく、そして参りたいと考えておるわけでございまして、以上。

(教育長 登壇)

・教育長(押本禧逸君) 給食センターの現在、状況というのといてお答え申し上げたいと思います。

現在給食をやっております学校は午前中申し上げましたとおり、四校でございますが、そううち館山小・学校と那志小・学校は五日制でございます。富崎小学校と豊房小学校は三日制というところで行なっているわけでございます。あと、十太校は現在行なっております、状況でございますが、脱脂牛乳の配給は全校がこれを実施しております。

それから館山市の体位、状況ということでございますが、今正確な表は山根学校教育課長が数正理しておりますけれども、私が聞いておるところで、確実なお答えにはならないかと思っておりますけれども、身長体

重篤では大体県下平均に近いかとも胸圍は必ず劣っている。三ついうようなことを聞いているわけでございます。

なお給食と体位と関係ということにつきましては現在実験的な検査を実施したものを用意しておりませんからわかりませんが今後給食センターが全市金児童生徒に行なわれます。際には是非校医さん或いは先ほども管理医さんというものがまゐるようなときがございまいたらう。お医者さんと密接な連絡を取り、御指導いただきつつ健康管理体位向上に尽くしたいという三ついう気持は持っているわけでございます。

・四番(伊賀多朗君)市長さんから親切丁寧な御説明がございましてどうもありがとうございます。

事務改善につきまして市民課がおもなことでござい
しょうが、今度は係長さんも窓口まで出て下さると
いうことは非常に結構なことだと思います。市長さ
んという親切な気持が本当に窓口にあふれるよう
になると思っています。これから期待しておりますが
人をふやさないで、それも非常に結構だと思いき
が、サービスをモットーとしても仕事のーやすーい
組織が必要であろう。

計算機などたくさんあると思うんですが、電
算機による専門門々計算所みたいな計
算機セラーもあるんだそうでございますが、大いに機
械力を使って、いつそう実を上げて仕事が一やす
く、市民がサービスを受けて喜ぶというスタイルを
作りたいのださなと思います。

それから市町村合併のこと、館山庁開発計画、長期計画のことは一応割愛いたします。そのままにいたします。

それから第二点の汚水処理場、終末処理場のことにつきましても、現在、館山の保健所、御指導ということでございしますが、保健所長、警務所長が、それぞれ權威でございします。ぜひ、高説をお示しいただきまして、先進地も熱海などたくさんございしますから、ぜひ十分なものを作って、観光地として、衛生地として、衛生的なきれいな館山を作りたいと存じます。先ほどのお話ですと、昭和四十三年度に埋め立てが終了して、四十四年工事が完成するのではないか、ということも、もうすぐでございしますから、ぜひそういうことに、ついても御配慮いただきたいと思います。又、筆でございします。

それから、ベッドタウンを是非作っていただきたい。

これも長期計画に入ることかもしれないが、果此の方で内陸工業地帯ができるのは非常に土地が安く買える、高いところもあるが、そうですが、今、どんなに用いているところは、安いのだ、そうではないです。

館山には、開発公社という立派な仕事を、いろいろな方々があるわけですから、大いに宅地造成にも実を上げていただきたいと思つた次第でございます。

それから最後に述べようかと、食センターに是非、専門の医師を入れて管理、医師として、実を上げていただきたい。

次世代の人たち、健康管理に十分留意して、健全に育てていただきたい、というお話に、聞いても、教育長が、ありがたうと言葉をい

たけきまーたふー十分に理解いたしました。
どうもありがとうごさいました。

議長（吉田勇治郎君）四番議員の質問を終わります
暫時休憩いたします。

午後二時三十分 休憩

午後三時二十分 再開

議長（吉田勇治郎君）休憩前に引き続き会議を
開きます。

二番議員安西益男君（御登壇）願います

（一八番議員登壇）（拍手）

一八番安西益男君私は二点づきまーた当局をお考え
をお願いします。

まず第一点といたしましては、下水道施設、長期計画はどうかという点でございます。

昨今、都市の近代化に伴い、下水道施設の問題はもはや時代の趨勢であると思っております。そう都市の下水道を見るならば、文化の程度がわかると言われております。かつまた都市の静脈、役目をなしておるものだと言われておるものであります。従って、これが完成するの否かは、市民生活の中に密接な関係を持ちます。故に大きな問題と云っておるものであり、また同時に市勢の発展に大きく影響を持つが故にまさに重大な課題であると痛感せざるを得ないのでございます。館山市の将来に向かふ三大方針、即ち観光産業、教育を、男子としての重点施策は、館山市の将来を左右

する重要な施策とされており、なほつく観光都市として掲げられておる比重は極めて大きく故に市長は一大観光都市たうめるべく、一身の努力を傾注してその実現を期そうと述べられておられるのであります。まことにその熱意には表にすべし敬意を表するものと致しうございませう。

館山市の将来はあらゆる観点から見まするとき、観光の面を抜きにしては考えられないと致しうございませう。鉄道や電化に伴い、海岸地帯の整備に加え、館山市の総合開発、さらには木更津を中心とした一大工業地帯の影響面等々、観光都市として整備され、実現の方向に前進を開始してつあると言えよう。かような点から、市が全貌を見ますとも、立ち遅れており、また大きく

フローズン・アップして参ったが、ニ、下水道施設要望の
声であると言わねばなりません。市が近代化に伴い、深
刻な問題として関心はより高まりつつあり
市内を見まするところ、各家庭から汚水は
流すやうなために夏季ともなれば臭気はひどく魚加
工場等付近はことさらにひどい状況であります。
また排水路のない家庭等々如きは庭に穴を掘り
そこにしみ込ませておるといふ現状であります。
当然環境衛生の点からも問題であり、加えて蚊
や蠅等の発生源ともなっております。
上水道・下水道、関係は車の両輪の如き関係に
あるとされております。そのもとく当然であります。
故に下水道完備なくしては、観光都市としての近代化
は望めないものと言えまう。

昭和二十七年に企業誘致条例ができて以来、十六年
 今なお工場が進出は皆無とうことでございます。

なぜでありましょうか。これは、買入れの態勢が不備
 に原因があると言わざるを得ないやうであります。

しかしながら近年はうるく市勢発展への歩みが
 顕著に現われておることは万人が認めるどころと信ず
 るものであります。故に、いかに対策には、技術的
 な長期計画の検討がなされて、施設工事の調査
 をなすべきであると思ひます。が、当局の構想につ
 いてお伺いするものであります。

次に第三点といたしましては福祉行政の推進につ
 いてでございます。

まず生活保護対策、医療保護対策、さらに
 また老令者保護対策について、身障者保護

対策等についての市の現況、或いはまた今後への対策につき
まゝ伺ひするものとあります。こゝ福祉行政の
点につきましては、うちほど若干細かく伺ひたいと
思ひまゝ、まず一応私の質問を終わらせていただきます。

(市長 登壇)

市長(本間 謙君) 安西議員の御質問に対してお答え
いたします。

まず第一番目、下水道整備の長期計画についてで
ございますが、こゝ下水道は町の伸展の先にやることか本
当はいつことであると思ひますけれども、その前に現在
は上水道とか或いは学校とかいろいろ施設をどう
してもやらなければならぬ。また市民の要望もど
うござりますから、そういうものをやっておるわけでございます
ます。下水道の整備というものはおちせうのように観

光都市第1にありましては、もっとも大きなわけ
でございます。また市民の健康管理の面からいたし

ましても極めて重要なことであるわけでございますが

このにつきましては、率直に申し上げますと、まだ検討し

たことがないわけですから、一か一かながら、これは観光都市

として発展して行く上におきましても、市民の健康管

理からましても、やはりいつとは申し上げられませんが

いども、是非とも考えて長い計画においてやらなけ

ればならぬものと、私も考えておるわけでございます。

来年度からはひとまず、学校や老朽校舎などなんかの

整備です。ね。そういうこととか、先ほど申し上げました

とおり、道路の問題です。ね。市道、狭いところを

広げる問題とか、そういうものをやりながら、このこと

についても、関係者とともに検討をして計画を立て

てなければならぬと考えております。一かーながら下水というものは非常に金がかかるそうです。これを機会に一つ検討を続けて参りたいと思うわけでございます。

次に福祉行政についてでございます。二に生活保護対策、医療保護対策、老人保護対策、身体障害者保護対策、三というものがございまして、国が責任においてやらせる仕事でございまして、館山市がこれをどうしようというふうなことは改善をはかることはすぐにはできないと思っておりますが、その内容によりましては陳情するとか何とか向上をはかることはいけぬかと考えております。

現在、老人関係につきましても非常に地域の方々が

熱意を持て、老人クラブの結成をうけておりまして
 現在、七十九クラブ位できておる。約五十人位になりますか。
 県下でも、老人クラブの結成は非常に上位にあるそう
 でございますが、二つに對しましては、老人の健康増進
 ですわ。老人が、楽いむ場所というんですが、そういう
 ことについての福祉をはかろうというところで、本年からは
 今まで学校や運動会に敬老会を兼ねてお願い
 しておたんですが、本年からは地域ごと、老人の方
 々を集まり、願って一日ゆっくり楽んでいただくこ
 ういうことで、老人に對処しようというところで、やっておりますが、
 そうです。それには、ここには、民謡ですが、そういう
 ことを楽しんで、いる方々がございます。そういう方々
 をお願いして、慰安的なこともやる。また講師
 を頼んで、老人の方々のために、なる話をしてもうたいたい

というところでありますが老人に対しては市では八千文
以上に対して千二百円、年金を現在支給してある
わけですね。それから八千文以上に対しては、座ぶとん
を一つお祝いをしておるわけでございますが、私考
えでは老人をもう少し、八千文とか七千文とかまで引き
下げて、市から年金というものを支給する方法
もありましょう。また現行のままでも、額をふやすと
いう点もありますけれども、本年の予算では、そう
いうことは計上してございませんから、そのままでは
ございまずけれども、来年から活動する老人クラブ
の活動と合わせて老人のそういう経済面について
も、クーでも助成をはかって参りたいと考えておる
わけでもございます。

それから身体障害者については、これは金を通します。

して会々育成のために補助金を二ヶ月前よりも
 特に増額して二ヶ月前の方々のケイでも幸わせに
 なるようにというところで配慮してあるわけでございます
 いずれにしましても二ヶ月前のことにつきましては国が仕事
 でありまして市であることはこういう該当者の調査
 を適正にあるというところから望まれているわけで氏は
 委員の方やなんかにお願いして調査を完全にして
 間違いないように十分考えてやりたいと思えます。
 対策と申し上げても、そういう程度でございま
 してあとは国が働きかけというふうなことになると思
 います。その程度で御了承願いたいと思えます。
 二八番（安西益男君）下水道の問題は確かに市長
 さんや答えてにございますように、これはなかなか
 一朝一夕に出来ない問題だということでは重々わかる

うであります。カーもはや二、三時点におきま
ては、この下水道施設や設置に対する計画は当然
立てていなければならぬ。かような時点にきてい
ると思うもふであります。従つて各市の資料等も
ございそうですが、どう市にいても、莫大の費用をかけ
て五年或いは十年、かような長期の計画によつて
たゞおておりまするで、近々そのような計画を調
査費等も計上していただきまして、専門的
な設計事務所等に依頼して調査する。
一つそのような方策をお考え願いたいと思ひますが、こ
の点につきまゝていかがでしょうか。

。市長(本間蔵君)ただいまのことにつきましては、これから
検討してまいります。すぐといわなくてもいいです。
けれども、そう考え方で進んで参りたいと思ひます。

二八番(安西益男君) 第一番目、質問は了承いたします。
次に福祉関係の問題でございますが、これは当然
国の制度でありまして、ただ、私も特別お尋ねしたい点
は、こゝ扱います。この人たちが本当に愛情に欠けた
そういった立場の人たちに対するその任に当る人たちが
お考えと言います。どうか、態度と言います。どうか、そう
いう面について若干、お聞かせ願いたい。このように思っ
てもござりますが、まず、最初にこれは福祉事
務所長さんにお伺いしたい。でありますか。市長
さんは職員に対してまゝでは常々、市民に対して親切
をモットーにするように、かまうな御指示が再三な
さいておるといふことを聞かされておりますが、福
祉事務所長さんは、その点につきまゝ、おけり。
さう思われておりますかどうか。この点、まず、お

伺いたいと思います。

・福祉事務所長（池田亮山君）私は常にこの仕事に携わっており、ますケースワーカーでございしますが、ここが生活扶助等に関する窓口でございします。特に親切に当るように指示しております。また、職員もそのような心持でいるわけだと私はさように信じております。わけでございします。

なお、この取り扱いはつきまゝでは御承知のように、相談室が別に設けてございまして、そこにお入り願う。ひが突き合わせて御相談に応じておるわけでございます。特にその点は留意しておるつもりでございます。

・八番（安西益男君）特に留意されておる。かようなお話でございまして、まづ、それにつきまゝで、お伺い

一たいという点は保護家庭の中学卒業生ニイ
人たちに對して市から被服を支給するといまう
たことを聞いておりますが、この点はどうであります
しょうか。

・福祉事務所長（池田亮山君）おそろくそれは教育扶助
でございましょう、と思つては、教育扶助は給
食とか、学用品等、ただいまうお話のやうなまう、
生活保護家庭に對しては、まゝでは、それ、きめられ
た額を、それ、支給してあるわけでございします。

・一八番（安西益男君）被服の支給等は、ないんですか。
福祉事務所長（池田亮山君）現物で支給してゐることは、
聞いておりません。

・二八番（安西益男君）それでは、私の聞き違ひかもしないませ
んが、実は、ごく最近でございしますが、服を支給するか

ら市役所にくるやうに。こゝうなお話があつたといふ
こととございますやうが、さういふことは、さうなかつたん
ですか。聞くところによりますと、一昨日ですか、さう前
日ですか、九時までにくるやうに、さうな話があ
つた。それでまとめて何人か、人を引率してある大
き町市内の百貨店と申しましようか。そこについて
いつて寸法を取つて支給する。こゝうなことを聞い
たんですが、さういふことは、なかつたでしうか。

・議長(吉田勇治郎君)暫時休憩いたします。

午後 三時二十六分 休憩

午後 三時三十七分 再開

・議長(吉田勇治郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

・福祉事務所長（池田亮山君）先ほどからお答え申し上げて
おりますように現在ではそういうような制度はござい
ません。先ほどから調べて見まいたが、ずっと以前だそ
うでございします。となにかう寄付と申しますか。そういう
ことによつて現物で上げたこともあるそうでございします。
最近におきまゝでは、そういう実例はございしません。

・一八番（安西益男君）大へんどうも私がそつ親でさへから話
があつたものですから、調査不十分で伺ひてまことに
申しわけございまして。

次点について伺ひたいと思ひます。これは先般、や
はり質問したわけでありましてけれども、四十二年
度におけるところの医療費の当時より予算総額、こ
れを伺ひたいと思ひます。

・福祉事務所長（池田亮山君）昭和四十二年度より医療費

助費の予算額でございます。当初におきまして六千四百二十八万円を計上いたしまして先だつての補正のとき七百九十八万九千円減額しております。差し引き現在予算額は五千六百二十九万一千円でございます。

一八番(安西益男君)続きまして三とに恐縮であります。四十三年度における医療費の保護の予算についてお伺いしたいと思ひます。

福祉事務所長(池田亮山君)四十三年度の補正の予算でございますが五千八百二十六万三千円を見込んでおります。

一八番(安西益男君)四十三年度におきましますところの医療費保護の予算額の約八百万近くの不用額と申しましようか。出ておるといふことに非常な何かこの四十三年度に限つてなせようか大きな不用

額が出たか。その原因についておわかりになりま—たら
 福祉事務所長（池田亮山君）四丁二年度の補正の問
 題でございますが、これは当初御承知のやうに医療
 費そのものが伸びておることが予想されたわけでございます
 実際に年度経過いた—ま—てほとんど最終になつて
 見ますと我々の想像—ま—たやうな医療費の金額
 の伸びがなかったというところで補正—たわけでございます
 ま—たただ、予定—ま—た件数はほぼ同—ま—た
 件数を示しております。

一八番（安西益男君）まあ、予定された当初の計画
 より大きく不用額が出た。なぜにやうなことを
 私と同じするかと申—ますと、やはり、これも申請
 申—込みの場合に問題がな—うか、どうか、或いは
 また現在医師の指示のもとに療養中の患者

さんに指導の必要はないのかどうか。私二は、また直接
聞いておりますが、どういった若干いさ過ぎの感
づきも、八百万という膨大な不用額については、何か
割り切れないものを感じるが、ございます。

このような人たちに對するこちらが扱い如何によつて
は若干左右されるが、はないか。かような危機の念
を持ちますので、やはり大きな不用額に對して、
疑問点かようなことが感じられるが、あります。

当初お尋ねいたしまして、市長さんは、常々市民に對
しては親切をモットーにかような指示が再三なされ
ておるといふことなる故に、ことに一般の方と違ひま
す。こゝような人たちを扱う非常に微妙な立場にあると
いふまいようか、そういった方に対して、こちらが血を
流した態度でござんて、ただただい、かようなふうの特

にお願ひしてみたい。こゝろ思ふもつてございませう。
以上う点につきまゝではとくとお願ひいゝか。質問に
移す。いゝまい。か。やうに思ふわけです。

先ほど老令者に對して市長さんからお考え等も
聞かされたわけでありませうが、現在老人ホームには
先般もお話がございまゝたやうに既に定員超過
してゐる。また、今後家族制度がなくなつた現在、
該当者がふえていくといふことは、當然考へていか
なければならぬ問題だと思ふわけでありませうが、
既にもう定員をオーバーしてゐるやうな、今後、そのよ
うな該当者が出てきた場合には、どのような受け入
れ態勢、どのような処置をしていつたらいいか、そん
なう点につきまゝして伺ひ申しあげたいと思ひます。

福祉事務所長（池田嘉山君）老人ホームの問題でござい

ますが、経営は先だて申し上げましたように福祉法人
でございまして、現在には若干、定員をオーバーしてある
状況でございまして、これは伺いますところによりまし
とある程度、一割程度ということもいってあるんで
すが、その位、オーバーの場合は一応許される範
囲内だということを知っているわけでありまして、が
大体、そういう面で館山市の老人が、あそこに入所する
ことについて、現在においては支障がないわけであ
ると思います。ただ、あそこにももし定員いっぱいにな
りまして、入所が不可能ということになりまして、別
の機関、県内、別、機関にお願いする方法
もあるわけではあります。たとえば館山老人ホームは
館山市、安房郡でいくともことはかう方からもち
おるといふことを聞いております。方々、そういう

に施設に対して収容の処置が取られるわけでございます。

二八番(安西益男君) 今後、飯山の方としては、この長期計画等にありますが、近隣町村と話し合い、市町村組合立りの特別養護老人ホームの建設を促進していく、かようなことがうたてられていると思いますが、今後そのような計画をお立てになるかどうか、この点等もお聞かせ願いたいと思います。

福祉事務所長(池田亮山君) 一つの福祉行政に対する理想像でございます。今、計画の問題でございます。まず、当然、財政も伴います。問題でございます。従って、将来の理想として、そのような公営の老人ホーム等、建設は当然考えていかねければならない問題であろう。かように考えておるわけでございます。

現在、段階におきましては、まだその計画、段階に至っていないということを申し上げます。

・八番（安西益男君）是非、そのまじな御計画をお立てになり、二人たち、今後、不安をなくしていただきたい。そのようにお願いいたしまして、この問題を終らせていただきたいと思っております。

次、身体障害者対策についてでございますが、これは非常に問題であろうかと思っておりますが、市内に相当該当者もおります。十八歳以上の人たちに対する今後、あり方等が大切だと考えらるるものから、わかる範囲でお聞かせ願いたい。二、三のように思っています。福祉事務所長（池田亮山君）お話のように、市内に現在身体障害者福祉会というところがあるわけであり、ます。身体障害者の方たち、いわゆる団体で

ございます。約会員は二百名程度と考えて
 おります。その人たちのいわゆる職場復帰に申
 しますか。そういつた指導とそれから義肢、義足
 等、補装具の修理、支給。こういつたものは保
 護法によつて適用する。そうして当初に申しさ
 した福祉団体、そのものに対しては若干の
 補助をいたしまして、そうしてその方たちが福
 祉向上に寄与して参つておるわけでございます。
 この問題も将来逐次優遇と申しますか、そう
 いつた方法は当然考えるべきであらう。そのように
 努力して参りたい。このように考えております。
 一八番(安西益男君) この問題はやはり大へんむづ
 かしい問題だと思つております。一か一ながら
 まは現在におきまゝでは、各市におきまゝで、こ

いった施設を市で作りおる個所が逐次見られて
おります。千葉県におきましても四十一年ですか
袖ヶ浦にそのような大きな施設を作りまうたので
そういった施設等と連絡を取りまうて今後十分
そういった方面の人たちに御指導 また激励、そう
いう面をとくとお願ひいたします。以上私
の質問を終らせていただきます。

議長（吉田勇治郎君）以上より通告者より質問を終り
ます。よつて本日はこゝにて散会いたします。

次会は三月三十一日午前十時開会いたします。
その議事は議案第四号乃至第十号昭和四十二年
度一般会計並びに特別会計手算案の質疑を
行ないます。

午後三時四十五分 散会

今日の会議に付いた事件

一 議事日程に同じ

出席議員

吉田 勇治郎

石井 輝久

嶋田 石蔵

伊賀 多朗

藤田 益治

磯辺 博

白熊 盛太郎

里川 正

三幣 勇

西村 真次

菊井 敏博

小柴 孝

山田 教宇

連山 三不子

石井 正

五十嵐 昇

江田 徳太郎

安西 益男

島野茂樹郎

中村省吾

関武夫

小澤恵太郎

飯田義男

田中祿郎

田村源治郎

秋山六三郎

安次徳順

望月照正

山口康

欠席議員

鈴木市蔵

